

令和 6 年度全国学力・学習状況調査

調査の結果及び今後の取組

熊本県教育委員会

1 調査の結果について（p 2～24）

（1） 調査の概要（p 3～4）

（2） 教科に関する調査の結果（p 5～9）

（3） 質問調査の結果（p 10～23）

（4） 成果と課題（p 24）

2 今後の取組について（p 25～28）

参考資料（p 29～34）

1 調査の結果について

1－（１） 調査の概要

■ 調査実施日 令和６年（２０２４年）４月１８日（木）

■ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査の対象

- ・ 小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、特別支援学校小学部第６学年の全児童
- ・ 中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、特別支援学校中学部第３学年の全生徒

■ 調査の内容

- ・ 教科に関する調査（小学校：国語・算数、中学校：国語・数学）
- ・ 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

1－（１） 調査の概要

各教科の出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※各教科の結果分析で、

（知）や「知識」と記しているものは、「知識・技能」で、
（思）や「思考」と記しているものは、「思考・判断・表現」で、
評価の観点を示しています。

1－（２） 教科に関する調査の結果（本県の概要）

本県の概要

- ・ 小学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語と数学は全国平均を下回っている。**

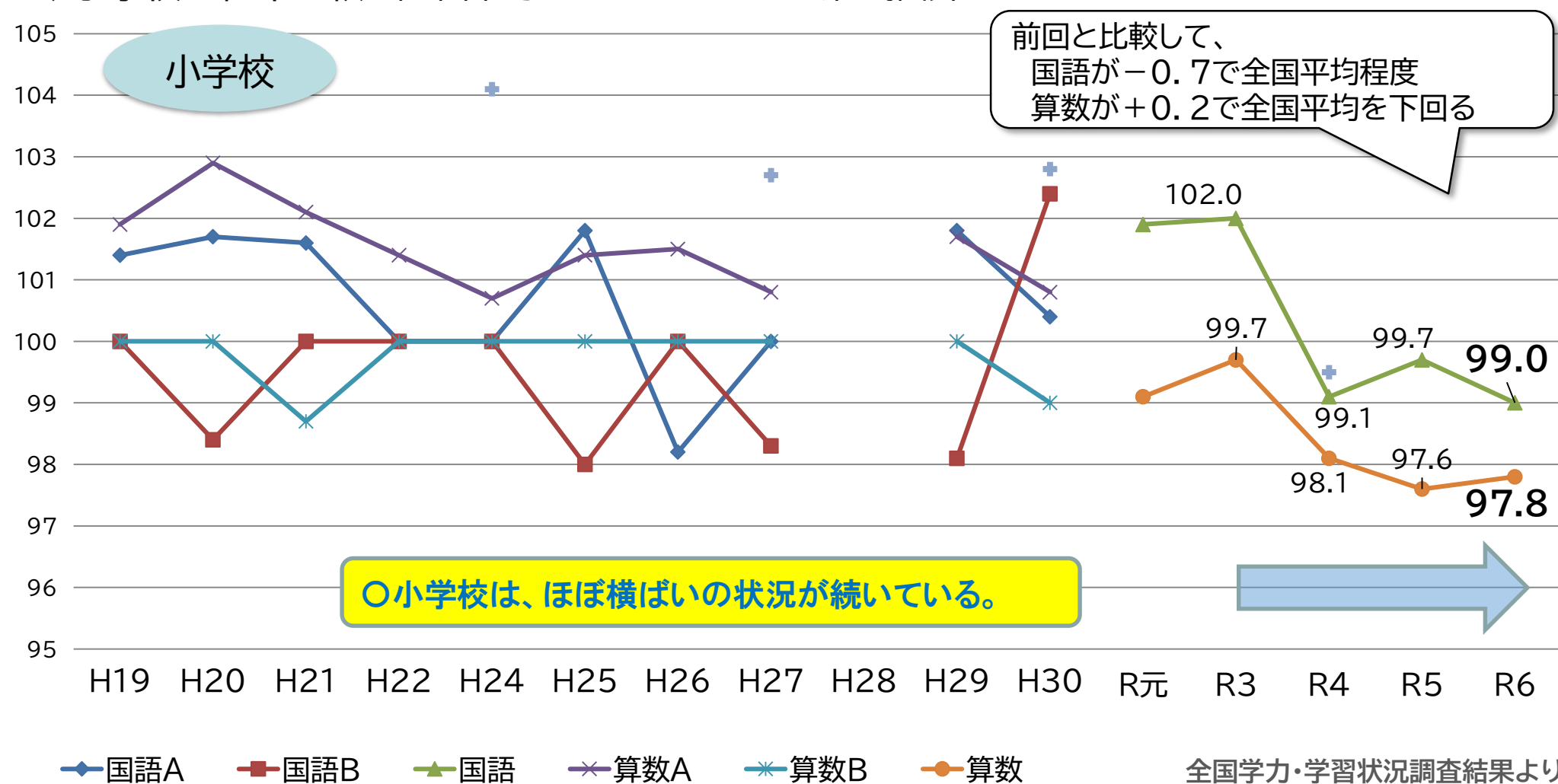
	【小学校6年生】	
	国語	算数
熊本県	67%	62%
全国	67. 7%	63. 4%

	【中学校3年生】	
	国語	数学
熊本県	57%	50%
全国	58. 1%	52. 5%

※表中の数値は平均正答率（％）、県の値は国から整数値で公表

1－（２） 教科に関する調査の結果（小学校の結果の推移 H19～）

◇小学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）

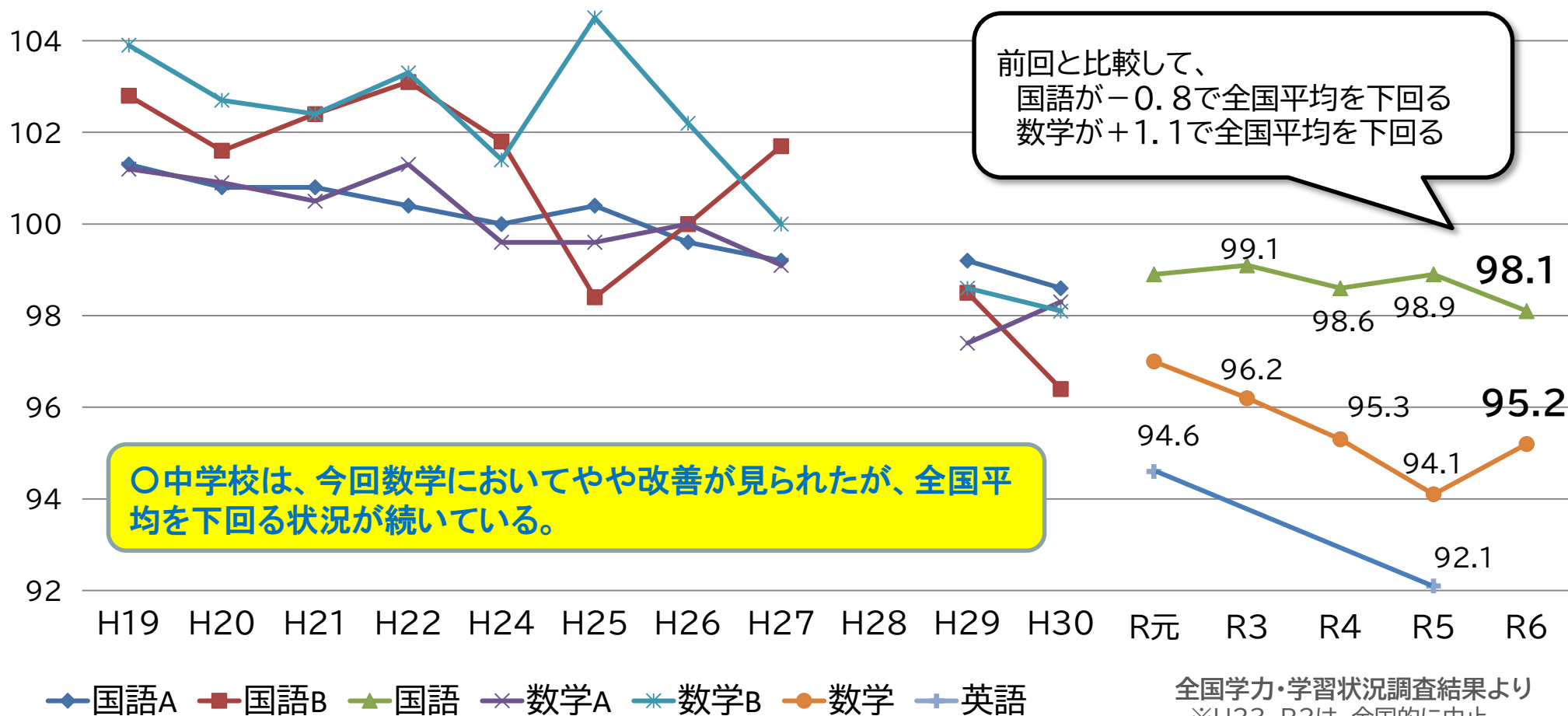


全国学力・学習状況調査結果より
※H23、R2は、全国的に中止
※理科については省略

1－（２） 教科に関する調査の結果（中学校の結果の推移 H19～）

◇中学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）

中学校



全国学力・学習状況調査結果より
※H23、R2は、全国的に中止
※理科については省略

1 - (2) 教科に関する調査の結果（国語の小問ごとの状況）



◇各教科における小問ごとの状況(国語)

- 国語では、全国平均を1ポイントより上回った問題は、小中ともに2問であった。
- 全国平均を1ポイントより下回った問題は、小学校で5問(「思考・判断・表現」で4問,「知識」で1問),中学校で8問(「思考・判断・表現」,「知識」それぞれ4問ずつ)であった。

・国語では,「思考・判断・表現」の問題で,全国平均を下回った問題が多い。

課題があった主な問題

【小学校】

- ・目的や意図に応じて,集めた材料を分類したり関係付けたりして,伝え合う内容を検討すること(1三)【思考】県正答率61.3(-2.5)
- ・登場人物の相互関係や心情などについて,描写を基に捉えること(3二(1))【思考】県正答率64.5(-2.4)

【中学校】

- ・資料を用いて,自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと(1二)【思考】県正答率65.4(-3.1)
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること(2四)【思考】県正答率39.6(-3.0)

1 - (2) 教科に関する調査の結果 (算数・数学の小問ごとの状況)

問題の観点 正答率 (%)				問題の観点 正答率 (%)			
問題番号	知識・技能	思考・判断・表現	応用	問題番号	知識・技能	思考・判断・表現	応用
【小学校】				【中学校】			
算数				数学			
1 (1)	60.3	62.1	知識-1.8	1	29.1	34.9	知識-5.7
1 (2)	57.2	55.9	知識-1.3	2	49.6	52.1	知識-2.9
2 (1)	53.4	56.9	思考-3.5	3	65.2	65.3	知識-3.1
2 (2)	55.2	59.1		4	55.6	45.3	知識+1.1
3 (1)	55.0	55.5		5	70.2	73.1	知識-2.9
3 (2)	70.6	71.3		6 (1)	59.2	50.2	
★ 4 (1)	53.6	56.9	思考-2.9	6 (2)	25.4	28.9	思考-7.5
4 (2)	71.9	72.0		6 (3)	59.5	45.5	思考-2.0
5 (1)	73.5	70.1	知識+1.4	7 (1)	68.2	74.3	知識-6.1
★ 5 (2)	44.5	50.5	思考-3.5	★ 7 (2)	23.1	25.9	思考-2.8
6 (1)	50.9	51.5		7 (3)	47.7	45.5	
★ 6 (2)	53.5	54.1		8 (1)	52.5	53.4	
8 (1)	50.5	50.5		★ 8 (2)	15.2	17.1	思考-1.9
8 (2)	72.4	73.3		8 (3)	75.9	75.9	
★ 9 (1)	42.1	44.1	思考-1.9	9 (1)	20.1	25.5	思考-5.7
★ 9 (2)	45.4	45.3	思考-2.9	9 (2)	22.9	25.7	知識-3.8

★ 国が課題としている問題

□ 全国平均より県平均が1ポイントより上回った小問
□ 全国平均より県平均が1ポイントより下回った小問

◇各教科における小問ごとの状況(算数・数学)

- 算数・数学では、全国平均を1ポイントより上回った問題は、小中ともに1問であった。
- 全国平均を1ポイントより下回っている問題は、小学校で7問(「思考・判断・表現」で5問,「知識」で2問),中学校で11問(「思考・判断・表現」で5問,「知識」で6問)であった。

・算数・数学では、「知識・技能」,「思考・判断・表現」の問題ともに、全国平均を下回った問題が多い。

課題があった主な問題

【小学校】

- ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと (1(1))【知識】県正答率60.3(-1.8)
- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できること(4(2))【思考】県正答率66.5(-3.5)

【中学校】

- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること (6(2))【思考】県正答率28.4(-7.5)
- ・与えられたデータから最頻値を求めること (7(1))【知識】県正答率68.2(-6.1)

1－（3） 質問調査の結果（本県の特徴的な項目）

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
児童生徒	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか （「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	63.4	59.5	+3.9	67.2	64.4	+2.8
	学校に行くのは楽しいと思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	86.7	84.8	+1.9	86.2	83.8	+2.4
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	89.7	89.9	－0.2	91.0	90.4	+0.6
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （「発表していた」＋「どちらかといえば、発表していた」の割合）	60.6	67.6	－7.0	53.6	64.8	－11.2
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	79.0	81.9	－2.9	74.8	80.3	－5.5
	国語の授業の内容はよく分かりますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	87.1	86.3	+0.8	81.6	82.7	－1.1
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	81.5	82.1	－0.6	70.3	75.7	－5.4
学校	近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか （「よく行った」＋「どちらかといえば、行った」の割合）	76.8	64.0	+12.8	81.6	69.0	+12.6
	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（「週に1回程度、または、それ以上行った」＋「月に数回程度行った」の割合）	85.9	78.9	+7.0	77.3	64.7	+12.6

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

単位（％）

1－（3） 質問調査の結果（本県の特徴的な項目）

■ 全国平均を上回っていた項目

- ・「授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、週3回以上使っている」、「学校に行くのは楽しい」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（中学校のみ）」等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回っている。
- ・「近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行った」、「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った」等と回答した学校の割合が、全国平均を上回っている。

児童生徒が、「先生は、よいところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しい」と感じることから、教職員が、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」本県の教育行動指標を踏まえて、児童生徒に丁寧に関わっていると考えられる。

■ 全国平均を下回っていた項目

- ・「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っている。

児童生徒が、自分の考えを工夫して発表する機会や、自分で考え自分から取り組む機会を設定するなどの授業改善の取組を進めていく必要がある。

1－（3） 質問調査の結果（参考指標に関すること）

昨年度実施した熊本県学力・学習状況調査により、各学校に示した参考指標（令和6年2月通知）

【目標】 本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んで
いましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をし
ていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙
授業の内容はよく分かりますか。
（各教科において）



各教科の
平均正答率

状況の向上を目指す

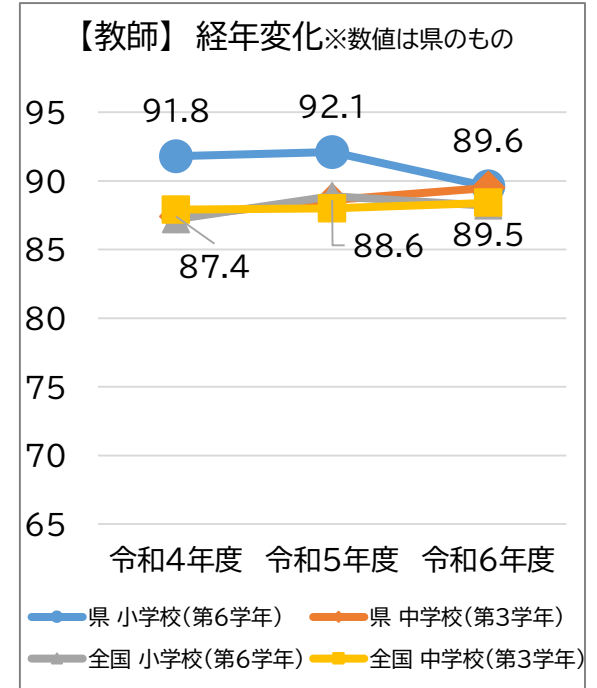
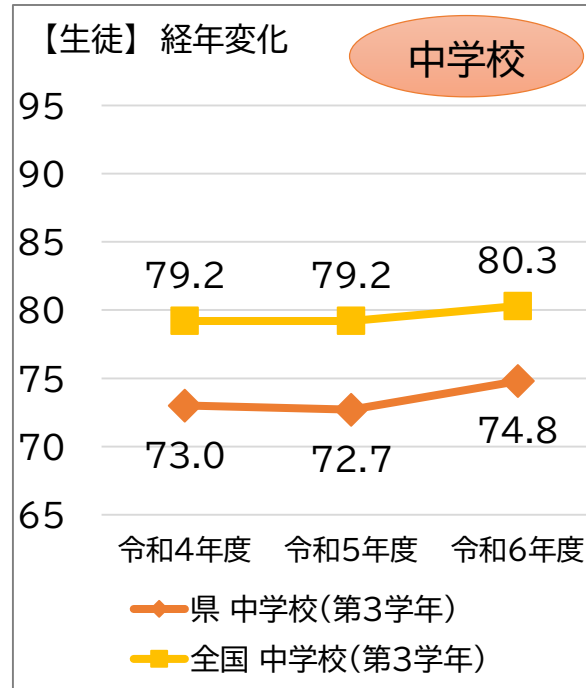
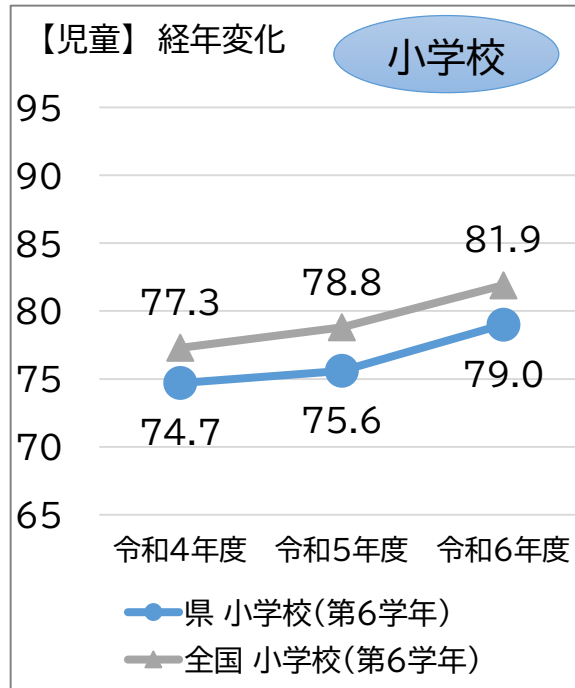
1－（3） 質問調査の結果（参考指標1に関係するもの①）

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

【参考指標1】

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」の割合



○小中ともに、全国値を下回っているが、前回よりも向上している。

○小学校で前回より下降、中学校で向上している。

・児童生徒の割合は向上しているものの、依然として児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。

1 - (3) 質問調査の結果（参考指標1に関するもの②）

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

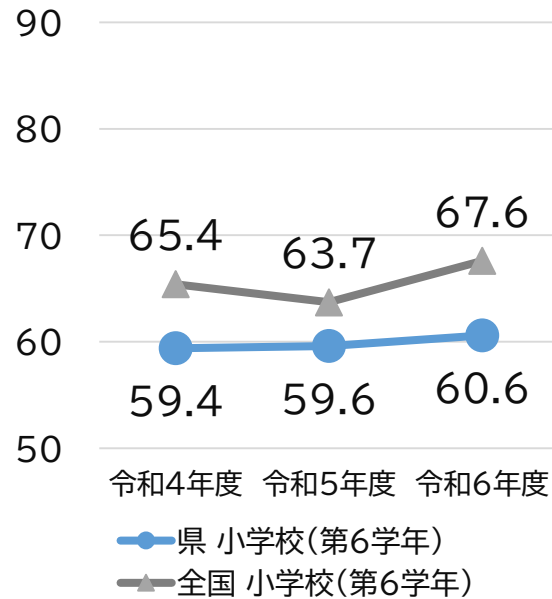
「発表していた」+「どちらかといえば、発表していた」の割合

調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。

「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」の割合

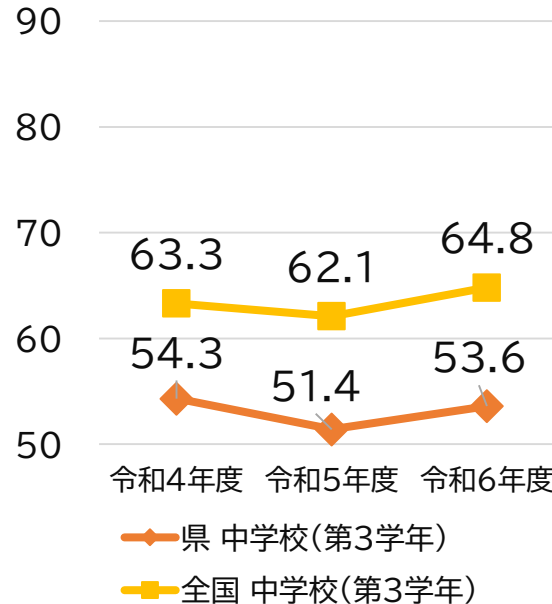
小学校

【児童】経年変化

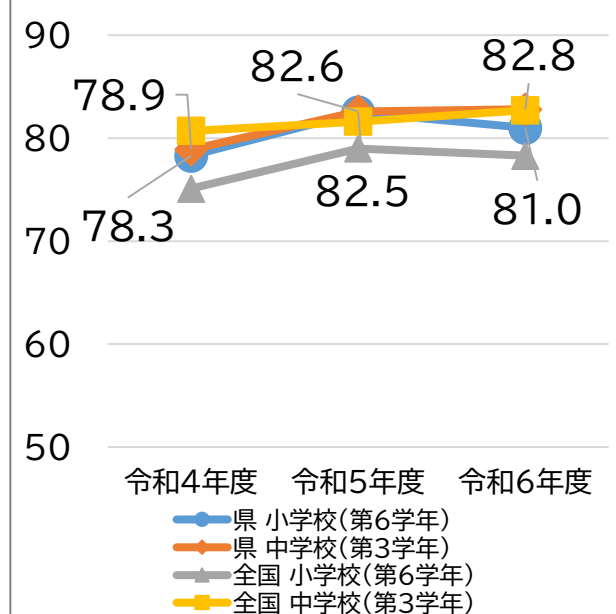


中学校

【生徒】経年変化



【教師】経年変化※数値は県のもの



○小中ともに、全国値を下回っているが、前回よりも向上している。

○小学校で前回より下降、中学校で向上している。

・児童生徒の割合は向上しているものの、依然として児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。

1－（３） 質問調査の結果（参考指標２に関するもの）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。）

今年度は、質問項目にありませんでした。

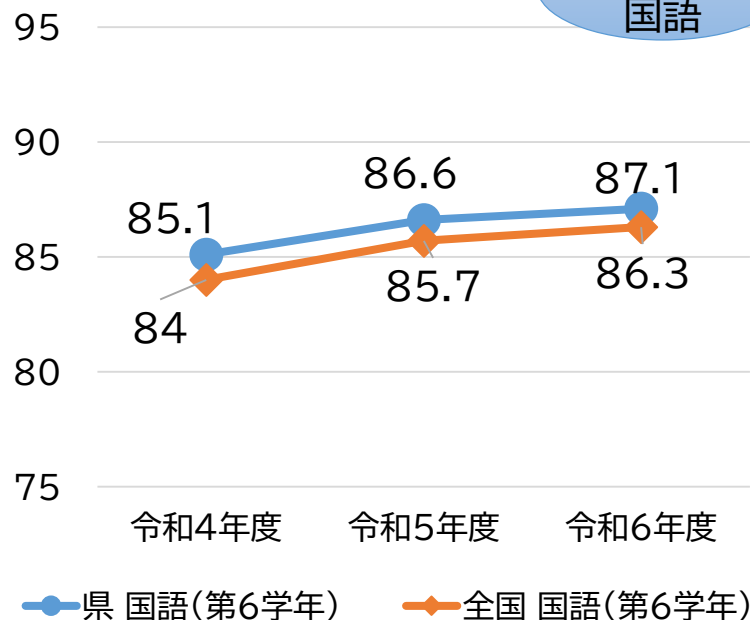
1－(3) 質問調査の結果（参考指標3に関するもの①）

授業の内容はよく分かりますか。（各教科における）

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

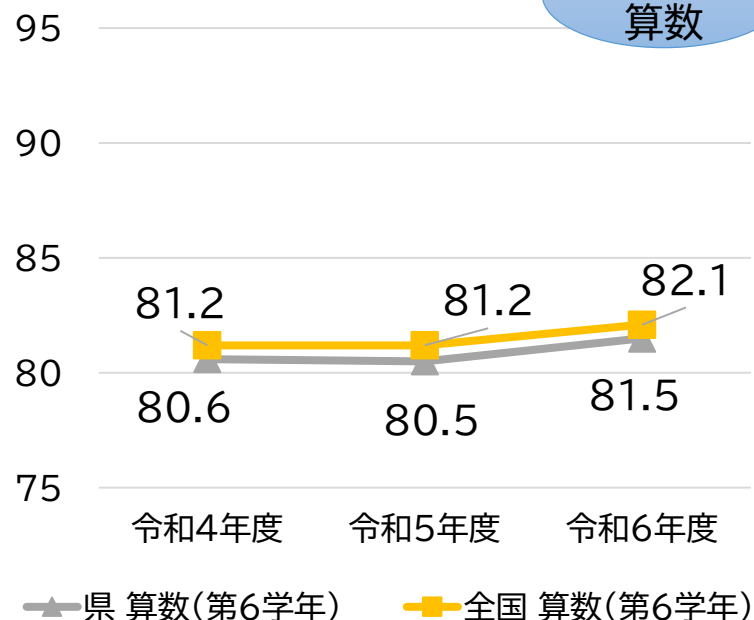
【児童】 経年変化

小学校
国語



【児童】 経年変化

小学校
算数



○小学校国語、小学校算数ともに、全国と同じ状況であり、前回より向上している。

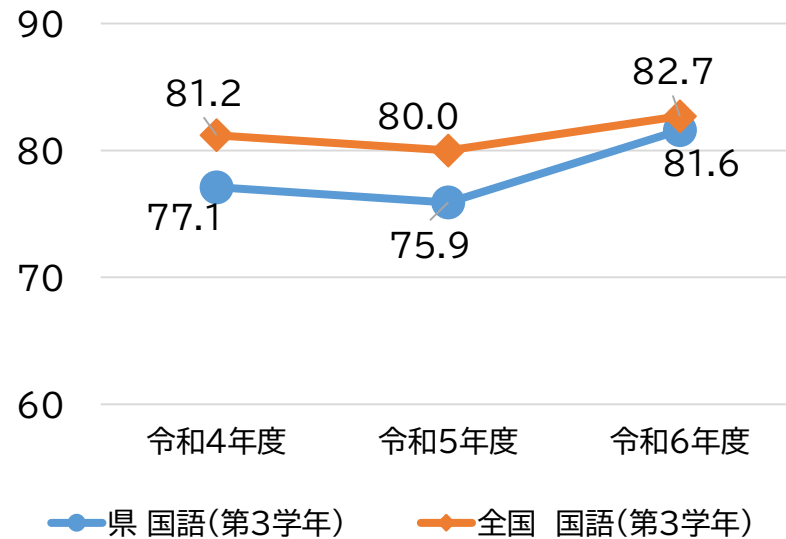
1－（3） 質問調査の結果（参考指標3に関するもの②）

授業の内容はよく分かりますか。（各教科における）

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

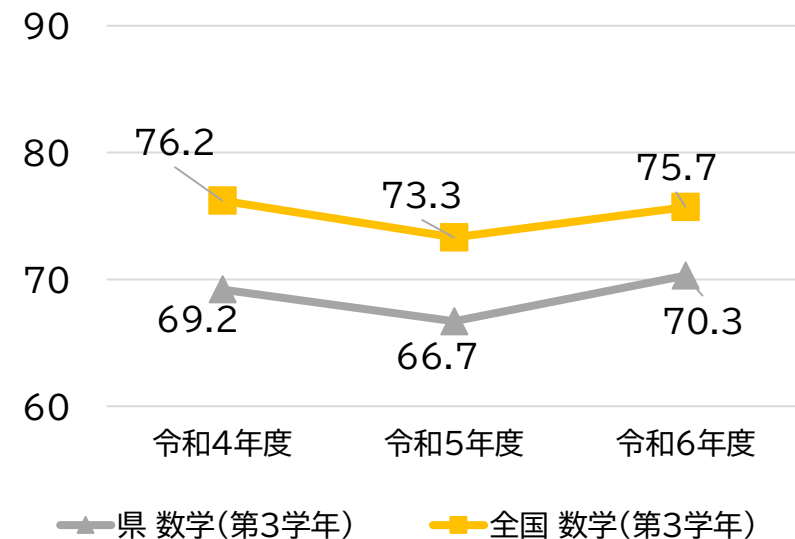
【生徒】 経年変化

中学校
国語



【生徒】 経年変化

中学校
数学



○中学校は、国語、数学ともに全国平均よりも下回っている。国語、数学ともに前回より向上している。

1－(3) 質問調査の結果（参考指標3に関するもの③）

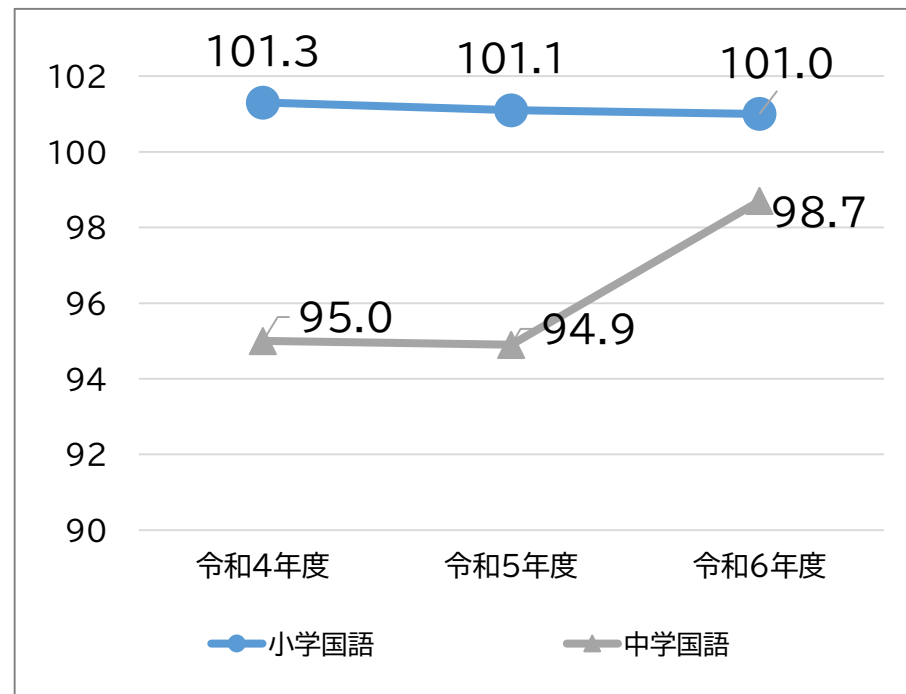
〔児童生徒の理解度と平均正答率との相関〕

国語

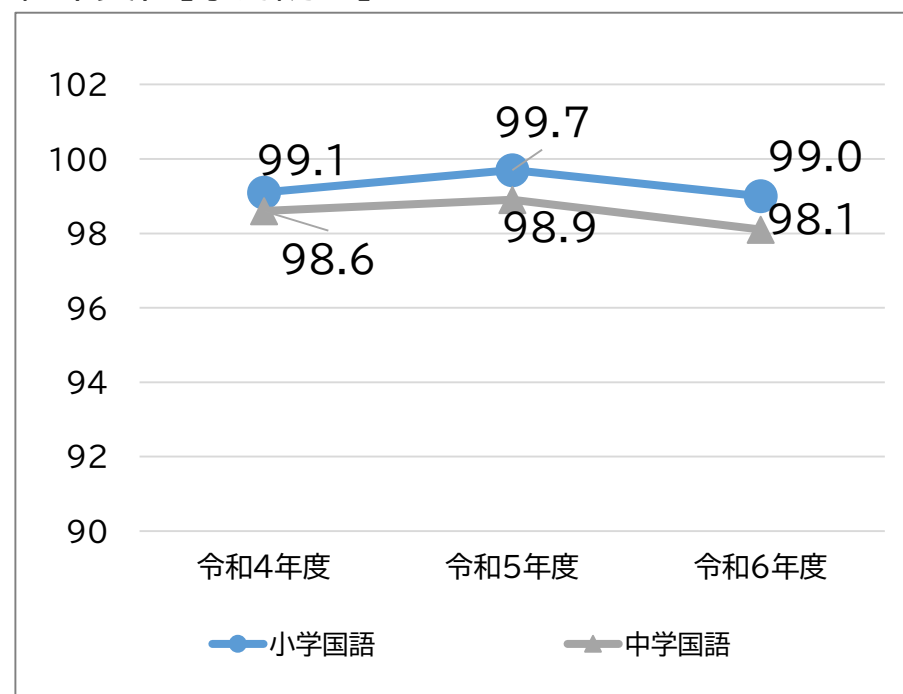
授業の内容はよく分かりますか。
(全国平均を100としたときの県の肯定率の推移)

全国平均を100としたときの県(平均正答率)の推移

経年変化【質問調査】



経年変化【学力調査】



○国語においては、小中ともに、「よく分かる」と回答する児童生徒の割合は、前回より向上している。

○全国を100としたときの平均正答率は、前回より低下している。

・国語では、小学校は、理解度と平均正答率は同様の傾向が見られたが、中学校では見られなかった。

1－（3） 質問調査の結果（参考指標3に関するもの④）

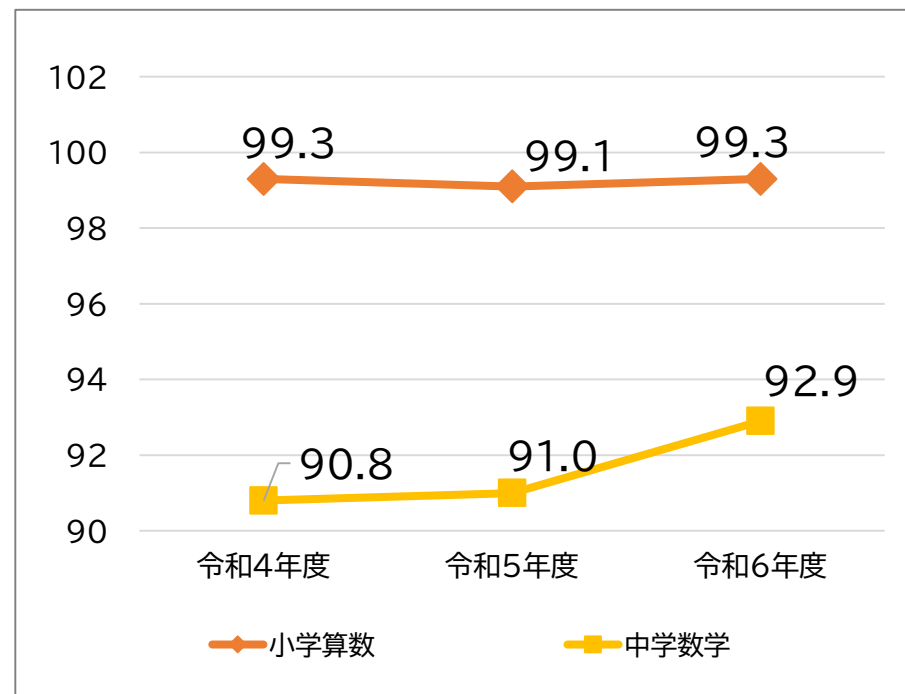
〔児童生徒の理解度と平均正答率との相関〕

算数・数学

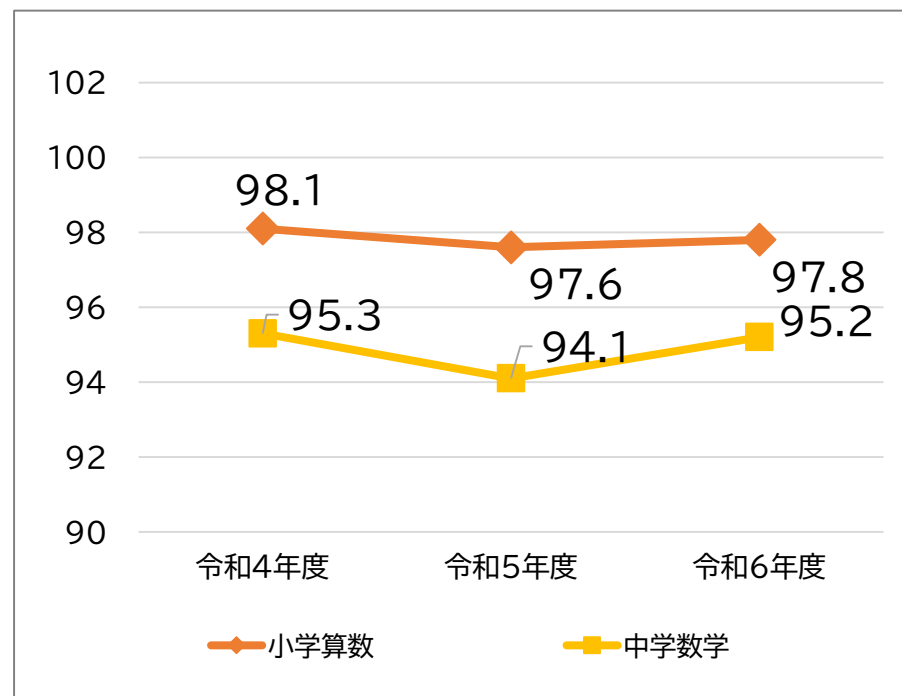
授業の内容はよく分かりますか。
（全国平均を100としたときの県の肯定率の推移）

全国平均を100としたときの県（平均正答率）の推移

経年変化【質問調査】



経年変化【学力調査】



○算数・数学においては、小中ともに、「よく分かる」と回答する児童生徒の割合が、前回より向上している。

○全国を100としたときの平均正答率も、前回より向上している。

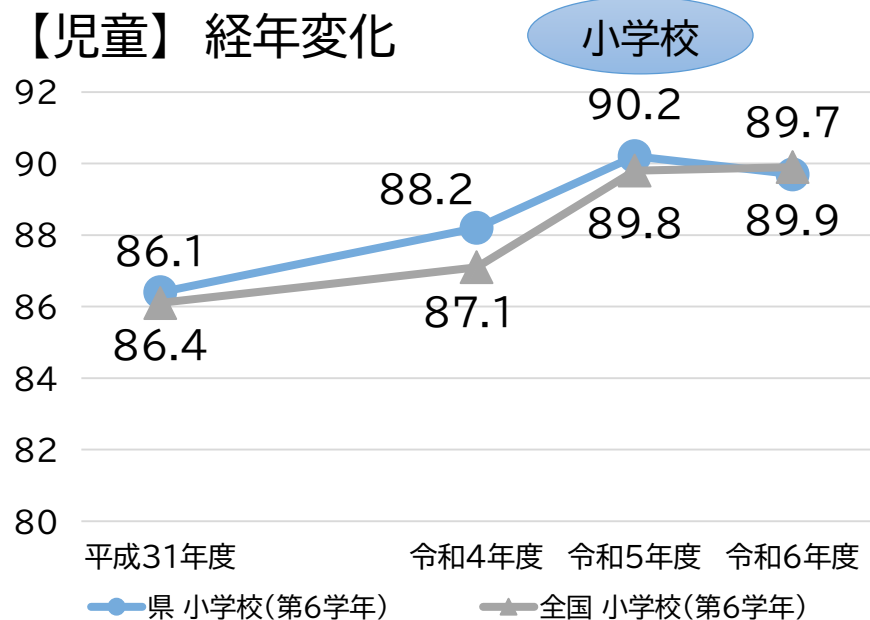
・算数・数学では、児童生徒の理解度と平均正答率は同様の傾向にある。

1－（3） 質問調査の結果（教育行動指標に関するもの①）

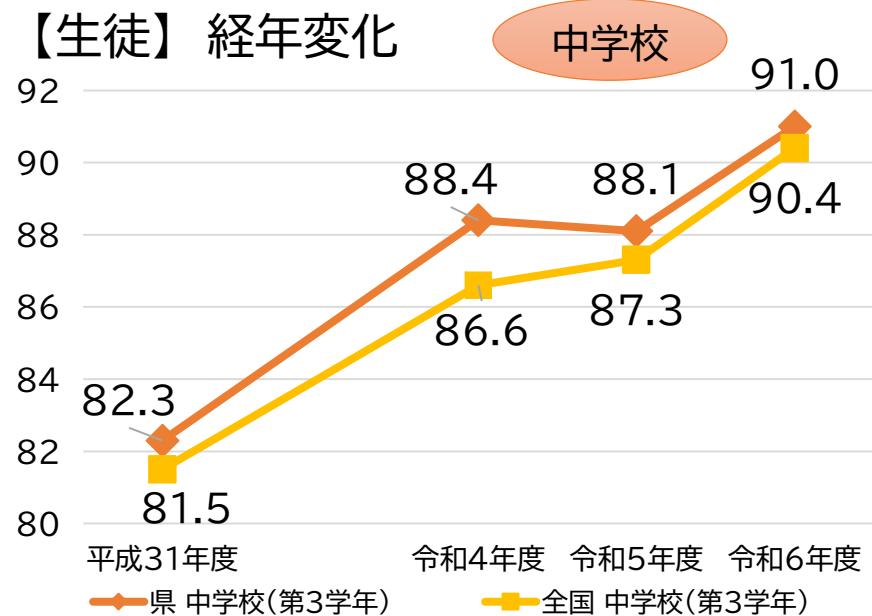
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

※R3年度は調査なし

【児童】 経年変化



【生徒】 経年変化



○小中ともに、9割近くの高い数値を示している。

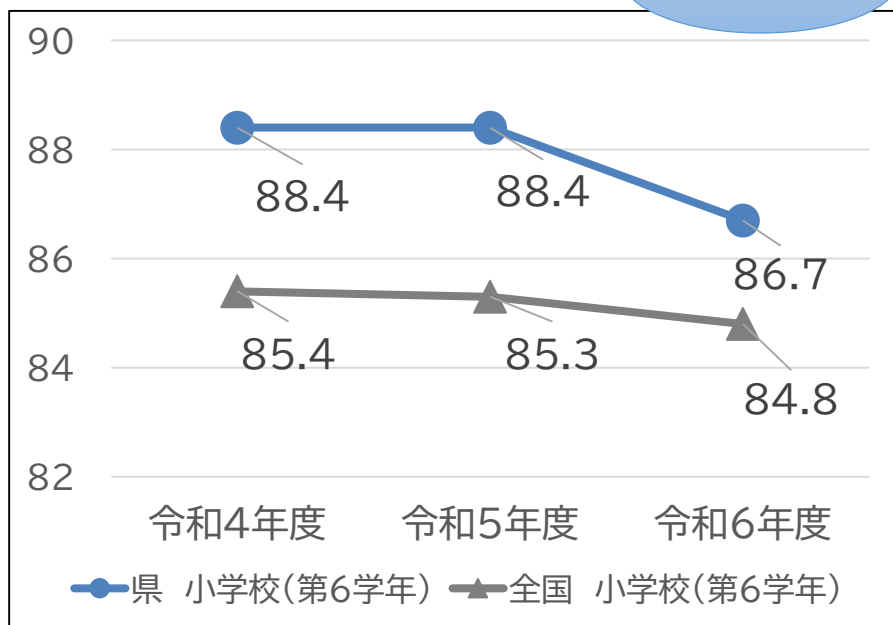
・教職員一人一人が、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」県の教育行動指標を踏まえて、児童生徒と関わっていると考えられる。

1－（3） 質問調査の結果（教育行動指標に関するもの②）

学校に行くのは楽しいと思いますか。「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

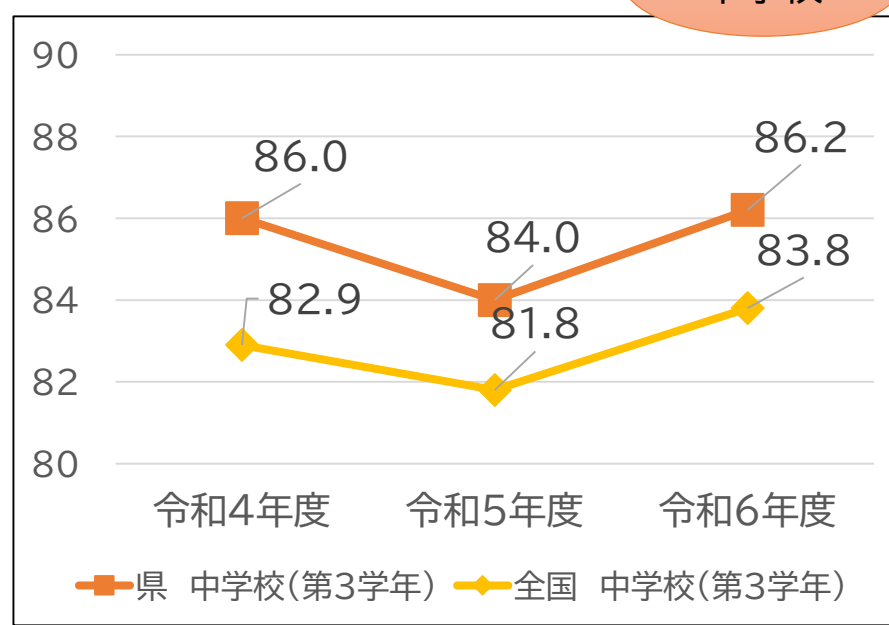
【児童】経年変化

小学校



【生徒】経年変化

中学校



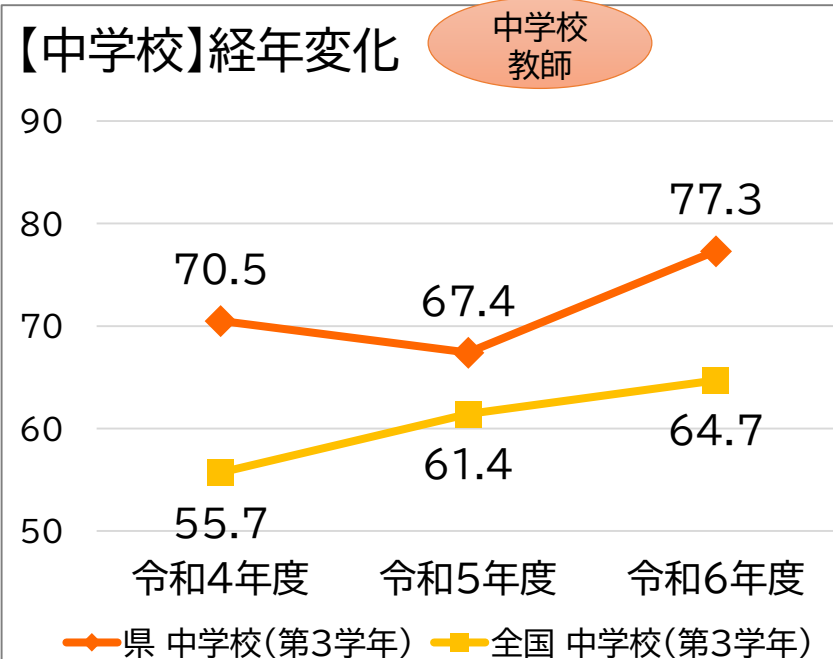
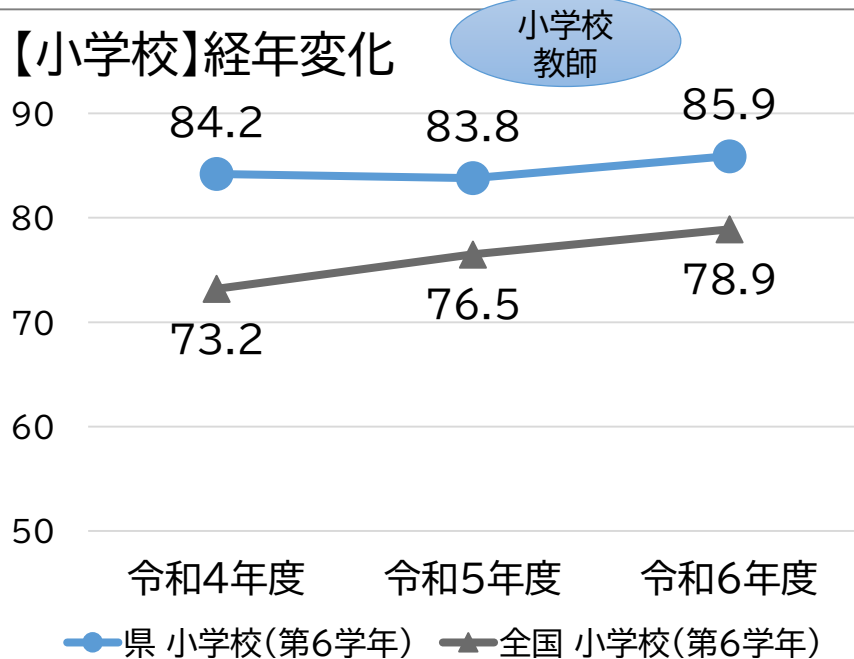
○小中ともに、全国平均を上回っており、本県が全国平均より毎年、約3ポイント高い状況が続いている。

・県の教育行動指標を踏まえた学級づくりから、子供たちにとって概ね安心できる学校生活の場が確保されていることが考えられる。

1－（3） 質問調査の結果（教員の授業力の向上に関するもの①）

校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか。

「週に1回程度、またはそれ以上行った」＋「月に数回程度行った」の割合

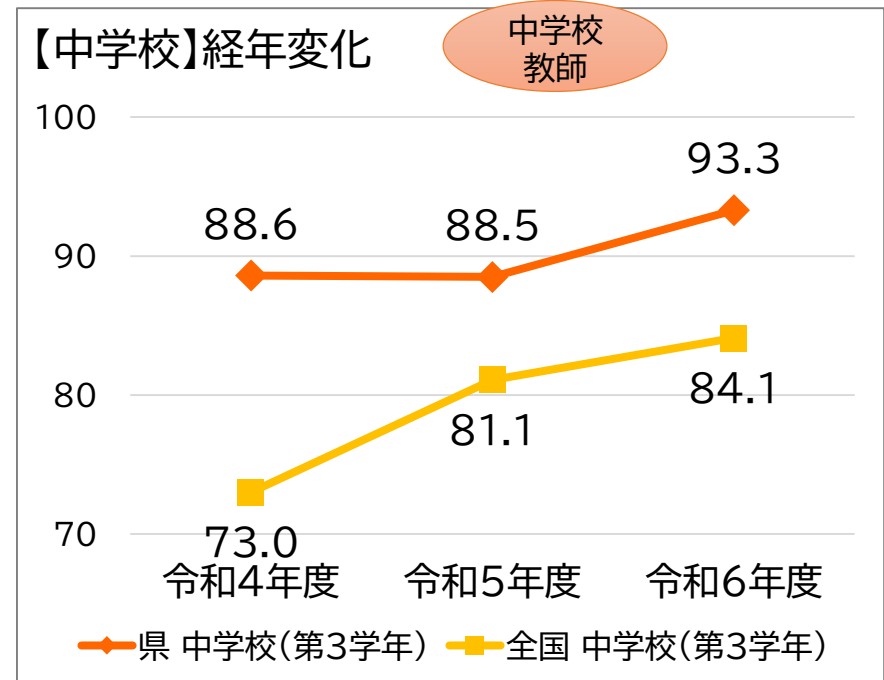
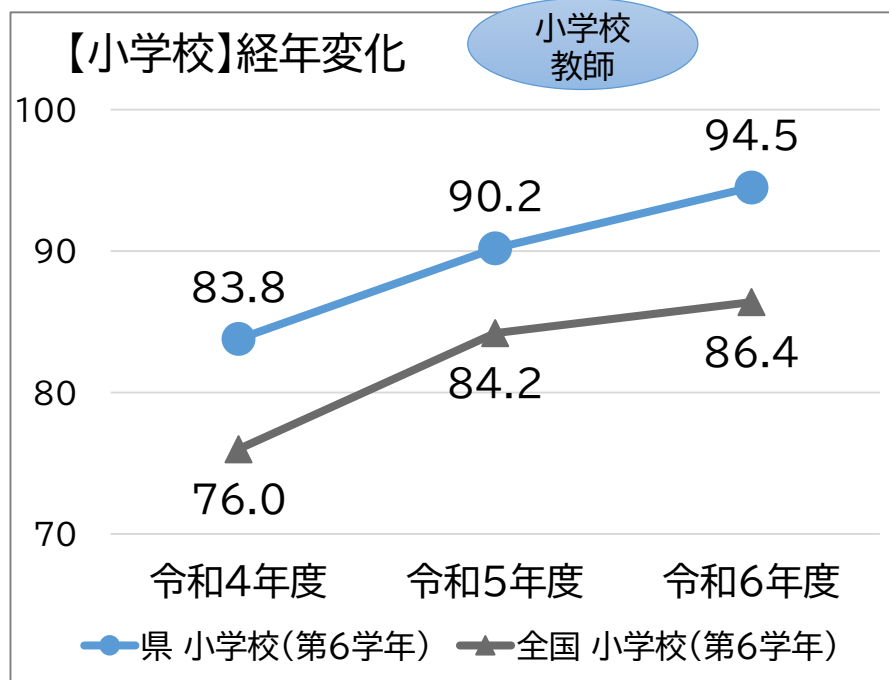


○小中ともに、全国平均より高い傾向が続いており、前回より向上が見られる。

・校長が、教員一人一人の状況を把握し、課題解決に向けた取組が行われている。

1－(3) 質問調査の結果（教員の授業力の向上に関係するもの②）

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか。（オンラインでの参加含む） 「よくしている」＋「どちらかといえば、している」の割合



○小中ともに、全国平均より高い傾向が続いており、前回より向上が見られる。

・一人一人の教員が研究会等に参加する学校が多いことから、授業力の向上に対する意識の高さが考えられる。

1－（４） 成果と課題

◇成果

- 「先生はよいところ認めてくれる」「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒の割合が多い。
- 「授業で、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「授業が分かる」と感じている児童生徒の割合が増加している。
- 校長が率先して授業について話し合ったり、教員が専門性向上のために研究会等に参加したりしている割合が高い。

◇課題

- △学びの主体性に関する項目は、全国平均を下回っており、児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。
- △「よく分かる」と回答した児童生徒の割合が、小学校国語を除いて、全国平均より低い。
- △正答率約7割以上が少なく、正答率3割以下が多い。

※別紙「教科の結果分析と課題の改善に向けて」を参照

2 今後の取組について

2 今後の取組について

次の検証(県学調)における重点指標

誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、
児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

重点 指標1

授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んで
いましたか。

重点 指標2

自分の考えを発表する機会、
自分の考えがうまく伝わるよう、資
料や文章、話の組立てなどを工
夫して発表していましたか。

重点 指標3

授業の内容はよく分かりますか。
(各教科において)

指標の
向上を
目指す

学力の
向上

※各学校の実態に応じて、指標を設定し、取り組む

2 今後の取組について

県教育委員会の課題の改善に向けた取組

⇒ 授業力の向上に向けて

誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、
児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

授業の質の向上

○「熊本の学び」プロジェクト校による公開授業の実施(10月～2月)【R6新規】

- ・子供を学びの主体とする授業改善や特色ある実践を各地域に幅広く周知

○オンライン研修の充実

- ・「全学調等の問題から考える授業実践」として研修を実施(第3回, 10月「熊本の学び」わくわくサークル) 国, 社, 数, 理, 英
- ・全学調を基にした授業づくりのオンライン研修(国, 算・数, 英)【R6新規】

○課題克服に向けた参考資料の提供

- ・全学調の結果を基に作成する教科の結果分析資料【R6見直し】

○「くまナビ評価問題」の提供

- ・全学調を踏まえ、児童生徒を学びの主体とする授業改善につながる問題の開発
※【R5～】小中国, 算・数, 中英, 【R6新規】小外, 中社, 中理

研修等の質の向上

○校内研修で活用できる資料の提供

- ・参加者主体の授業研究会に関する資料【R6新規】
- ・児童生徒を学びの主体とする授業づくりにつながる資料【R6新規】

2 今後の取組について

各学校の課題の改善に向けた重点取組

教員が授業を中心に行うこと

○児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定(①,②)とその内容の充実

①単元の中で、自分で考えたり、取り組んだりする学習活動を確実に設定する。

⇒重点指標1

②単元の中で、自分の考えを工夫して発表する学習活動を確実に設定する。

⇒重点指標2

○児童生徒が「分かった」と実感できる授業の充実

・全学調の結果から、課題が見られる問題は、その克服を図る。⇒重点指標3

・児童生徒の定着状況を確認し、定着のための手立てを確実に行う。⇒重点指標3

学校総体で行うこと

○教員が主体となる校内研修等の内容の充実 ※本課から資料提供予定

・自分自身の授業などの教育実践を振り返り、今後の改善や実践につながる気付きを得られる校内研修や授業研究会を行う。⇒重点指標1, 2

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組 ※本課から資料提供予定

・課題のある問題の解答状況の把握し、課題改善の取組を確実に行う。⇒重点指標3

・質問調査結果を分析し、課題については、学習状況の改善の取組を確実に行う。

管理職が行うこと

○授業の質の向上につながる助言内容の充実

・日常の授業参観を通して、授業力の向上につながる具体的な助言を行う。

⇒重点指標1, 2, 3

課題の改善に向けた重点指標及び取組

【次の検証(R6県学調・R7全学調)へ向けて、各学校で重点的に取り組むこと】

重点指標

〔R6熊本県学力・学習状況調査及びR7全国学力・学習状況調査において検証〕

【重点指標1】児童生徒質問
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【重点指標2】児童生徒質問
自分の考えを発表する機会、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

【重点指標3】児童生徒質問
授業の内容はよく分かりますか。
(各教科において)

※各学校の実態に応じて、指標を設定し、取り組み、向上を目指す。

学力の向上

重点取組

教員が授業を中心に行うこと

○児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定(①、②)とその内容の充実

①単元の中で、自分で考えたり、取り組んだりする学習活動を確実に設定する。
⇒**重点指標1**

②単元の中で、自分の考えを工夫して発表する学習活動を確実に設定する。
⇒**重点指標2**

○児童生徒が「分かった」と実感できる授業の充実

・全学調の結果から、課題が見られる問題は、その克服を図る。⇒**重点指標3**

・児童生徒の定着状況を確認し、定着のための手立てを確実に行う。⇒**重点指標3**

学校総体で行うこと

○教員が主体となる校内研修等の内容の充実 (※本課から資料提供予定)

・自分自身の授業などの教育実践を振り返り、今後の改善や実践につながる気付きを得られる校内研修や授業研究会を行う。⇒**重点指標1、2**

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組 (※本課から資料提供予定)

・課題のある問題の解答状況を把握し、課題改善の取組を確実に行う。⇒**重点指標3**

・質問調査結果を分析し、課題については、学習状況の改善の取組を確実に行う。

管理職が行うこと

○授業の質の向上につながる助言内容の充実

・日常の授業参観を通して、授業力の向上につながる具体的な助言を行う。
⇒**重点指標1、2、3**

目標：誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

別紙1

例えば、授業の発表場面で文章構成、資料提示など工夫して説明させる。聞き手は、発表について共感したことや感想等を伝える。

私は〇〇と考えます。その根拠は資料1です。

明子さんの意見に共感しました。なぜなら…。

例えば、校内研修で参加者同士の自己開示や対話、フィードバックなどの意見交流を通して、一人一人が新たな気付きを得られる工夫を行う。

私は、A先生の課題解決のアイデアを、やってみようと思いました。なぜなら…。

例えば、管理職の助言で子供の理解度に応じた指導や授業展開等、具体的な助言や支援を行う。

導入の場面での発問の意図は何でしたか。発問を「◇◇◇」にしてみると、つまづいている児童も…。

【課題の改善に向けた今後のスケジュール(例)】★各学校で、必ず取り組むもの(時期は各学校で設定)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
結果分析及取組の共有 →校内研修(県HP掲載「校内研修シート」の活用等)、各教科の分析、学校・学級づくりの分析	重点指標を向上させるために →校内研修や授業研究会等を通じて授業力の向上の取組		★課題改善重点期間 →重点取組(上記)の確実な実践 課題である問題の克服・学習状況の改善 →授業での確実な確認、学校生活での実践	県学調実施 ※重点指標の向上 →実施後、課題の見られる問題については即座に対応	結果分析及考察 →同一集団の「伸び(変容)」や指標の達成状況の確認、結果分析を踏まえた重点取組の改善と確実な実践 ※個人票と課題に応じた学習プリントの活用	★課題改善重点期間 →重点取組の確実な実践(フォローアッププリントの活用、前年度までの全学調の課題改善状況の確認) →児童生徒自らの課題分析、課題克服のための取組の推進	全学調実施 ※重点指標の向上	

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

29

本校の重点取組

本校の目標：

(活用シート)

重点指標

本校の目標：子供たち誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

【重点指標1】児童生徒質問

学校：肯定値(全国差)

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

県・小学校：79.0%(全国差-2.9)、中学校：74.8%(全国差-5.5)

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

【重点指標2】児童生徒質問

学校：肯定値(全国差)

自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

県・小学校：60.6%(全国差-7.0)、中学校：53.6%(全国差-11.2)

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

【重点指標3】児童生徒質問

教科：肯定値(全国差)

授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)

県・小学校：国語：87.1%(+0.8)、算数81.5%(-0.6)

県・中学校：国語：81.6%(-1.1)、数学70.3%(-5.4)

学校の現状：R6全学調(国 ()、(算・数 ())

R5県学調結果 (国 ()、(算・数 ())

R6県学調結果 (国 ()、(算・数 ())

【学校で設定した重点指標】児童生徒質問

県： % 全国： %

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

重点取組

課題改善重点期間(月 日 ~ 月 日)

授業や学校総体で行うことについて

別紙「課題の改善に向けた重点指標及び取組」を参考に、それぞれについて、取組を記入しましょう。

○「児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定と内容の充実」に向けた取組

<「学習活動の設定」に向けた取組>

<「内容の充実」に向けた取組>

○「児童生徒が『分かった』と実感できる授業の充実」に向けた取組

<「課題が見られる問題への克服」に向けた取組>

<「定着のための手立て」に向けた取組>

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組

<結果を基に実態把握・分析>

<目標及び取組の立案>

<プランの実行>

完了時期()

完了時期()

実行期間()

○学校で設定した重点指標について

<具体的取組>

指標の向上を目指す

学力の向上

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

30

参考資料「児童生徒に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
慣 生 基 等 活 本 習 的	朝食を毎日食べていますか	93.8	93.7	+0.1	93.0	91.2	+1.8
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.7	91.6	+0.1	93.7	92.5	+1.2
自己規範、挑戦心、達成感、有用感等	自分には、よいところがあると思いますか	82.3	84.1	-1.8	83.1	83.3	-0.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.7	89.9	-0.2	91.0	90.4	+0.6
	将来の夢や目標をもっていますか	83.0	82.4	+0.6	66.8	66.3	+0.5
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.8	96.7	+0.1	96.6	95.7	+0.9
	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.7	84.8	+1.9	86.2	83.8	+2.4
学習習慣、学習環境等	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	77.9	80.7	-2.8	73.7	78.6	-4.9
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）（「1時間以上」の割合）	48.6	54.6	-6.0	58.9	64.3	-5.4
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）（「1時間以上」の割合）	46.6	48.6	-2.0	63.0	63.0	0.0

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「児童生徒に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
C T の 活 動 の 活 用 状 況 、 I わ	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.1	83.5	-0.4	76.2	76.1	+0.1
	前学年までの学習の中で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	63.4	59.5	+3.9	67.2	64.4	+2.8
	前学年までの学習の中で、P C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	85.5	85.5	0.0	82.0	80.2	+1.8
授 業 改 善 、 対 話 的 で 深 い 学 び の 時 間 の 視 点 か ら の	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.6	67.6	-7.0	53.6	64.8	-11.2
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.0	81.9	-2.9	74.8	80.3	-5.5
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	84.8	86.3	-1.5	84.6	86.1	-1.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.0	80.8	-0.8	75.2	77.9	-2.7
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	89.0	87.9	+1.1	85.1	84.9	+0.2
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.7	81.3	-0.6	81.6	82.2	-0.6
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.4	88.2	+1.2	92.6	91.7	+0.9
理 教 科 の 解 度 の	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.1	86.3	+0.8	81.6	82.7	-1.1
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	81.5	82.1	-0.6	70.3	75.7	-5.4
	英語の授業の内容はよく分かりますか	79.4	78.3	+1.1			

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「学校に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
導 生 等 徒 指 指	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	85.9	85.5	+0.4	95.1	93.8	+1.3
	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか	94.2	90.6	+3.6	98.2	95.0	+3.2
質 学 向 校 上 運 に 営、 関 教 する 職 状 員 況 の 資	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（「週に1回程度、またはそれ以上行った」＋「月に数回程度行った」）	85.9	78.9	+7.0	77.3	64.7	+12.6
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	99.1	97.0	+2.1	97.5	96.5	+1.0
	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	94.5	90.0	+4.5	93.3	85.7	+7.6
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加含む）	94.5	86.4	+8.1	93.3	84.1	+9.2
状 主 況 か の 体 ・ 的 授 対 業 話 改 的 善 改 に 善 関 化 する 関 る 係 学 学 び 生 の 徒 組 自 視 ら の 視	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	89.6	88.2	+1.4	89.5	88.4	+1.2
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	81.0	78.3	+2.7	82.8	82.7	+0.1
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	93.2	90.3	+2.9	94.5	86.3	+8.2
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	94.8	89.3	+5.5	87.1	85.1	+2.0

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「学校に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。単位(%)

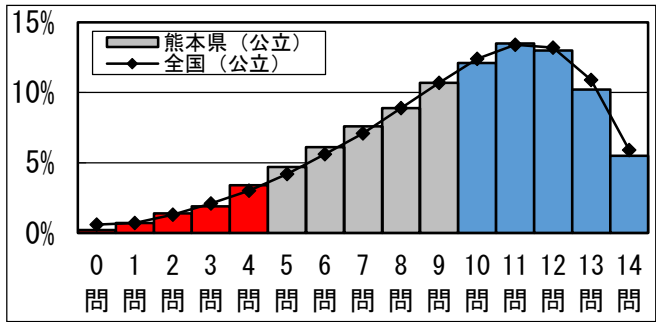
	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
価 学 習 評	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	89.3	87.1	+2.2	95.1	91.2	+3.9
学 習 状 況 I C T を 活 用 し た	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	77.1	76.6	+0.5	67.5	70.4	-2.9
	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	47.4	45.0	+2.4	35.0	41.1	-6.1
小 中 連 携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	76.8	64.0	+12.8	81.6	69.0	+12.6
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	98.5	96.1	+2.4	93.9	91.9	+2.0
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	94.1	87.8	+6.3	88.3	82.8	+5.5
活 用 全 学 調 の 結 果 の	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.6	96.8	+0.8	94.5	94.1	+0.4
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか	98.1	92.8	+5.3	94.5	89.3	+5.2

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

**令和 6 年度全国学力・学習状況調査
教科の結果分析と課題の改善に向けて**

熊本県教育委員会

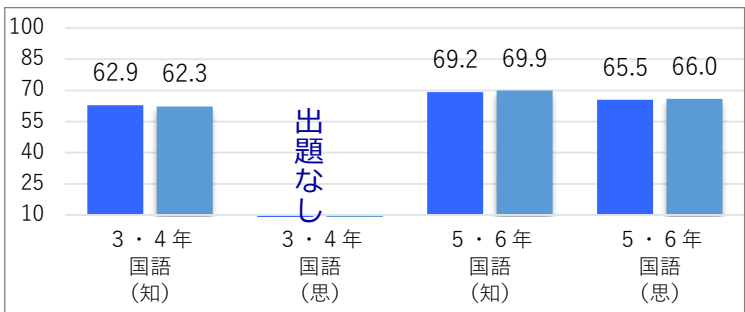
【正答数度数分布】



3割以下（4問以下）
県：7.6（-0.1）

7割以上（10問以上）
県：54.3（-1.5）

【観点別正答率】



全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出

本県 全国
※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続して全国を下回っている領域に関する問題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領の内容	評価の観点	正答率(%)		差
					県	全国	
1	― 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	5年6年	情報の扱い方に関する事項ア	知識	62.2	62.5	-0.3
	二 (1) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項イ	知識	74.2	75.9	-1.7
	二 (2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	5年6年	「話すこと・聞くこと」ウ	思考	51.4	52.9	-1.5
	三 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	5年6年	「話すこと・聞くこと」ア	思考	61.3	63.8	-2.5
2	― (1) 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	5年6年	「書くこと」ア	思考	79.2	80.3	-1.1
	― (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5年6年	情報の扱い方に関する事項イ	知識	86.1	86.9	-0.8
	二 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	5年6年	「書くこと」ウ	思考	58.4	56.6	1.8
	三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項工	知識	43.3	43.4	-0.1
	三イ	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項工	知識	75.2	76.0	-0.8
3	― 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3年4年	言葉の特徴や使い方にに関する事項力	知識	62.9	62.3	0.6
	二 (1) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	5年6年	「読むこと」イ	思考	64.5	66.9	-2.4★
	二 (2) 人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる	5年6年	「読むこと」エ	思考	73.3	72.5	0.8
	三 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	5年6年	「読むこと」エ	思考	73.5	72.6	0.9
	四 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5年6年	我が国の言語文化に関する事項オ	知識	73.6	74.6	-1.0

改善が見られるもの

- ①記述式の問題（2二、3三）は全て全国平均を上回っており、無解答率は、1問（2三ア）を除き全国平均より低い。
②情報の使い方にに関する事項アイについては昨年度より改善し、全国平均との差が縮まっている。
※全国平均との差 情報の扱い方に関する事項ア（R5：-1.0 → R6：-0.3） 情報の扱い方に関する事項イ（R5：-1.3 → R6：-0.8）

課題が見られるもの

- ①「話す・聞く」の内容は課題であり、特に「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」や「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」の定着が十分ではなかった。⇒次のページの内容へ
②学年別漢字配当表に示されている「漢字を文の中で正しく使うこと」については、全国平均との差が広がっており課題である。
※該当する問題の平均値における全国平均との差（R4：+1.6 → R5：+0.1 → R6：-0.5）

課題: 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討し、自分の考えを伝えること。「A 話すこと・聞くこと」

○大問1の正答率(小問別)

	一	二(2)	三
問題概要	目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する	自分の考えが伝わるよう表現を工夫する	集めた材料を分類・関係づけるなどして、内容を検討する
県正答率	62.2%	51.4%	61.3%
全国比	-0.3	-1.5	-2.5

改善に向けて: 集めた情報を相手に伝わるように整理する場を設定し、そのよさを振り返る活動を通して、目的や意図に応じて情報を整理することについて児童の理解を深める。

令和6年度の問題について 1 三

和田さんは【オンライン交流の様子の一部】を振り返り、発言⑮のところで、【和田さんのメモ】が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
※選択肢については要約して記載、正答は4

- 相手の学校の情報を整理していたので、事実と感想を区別して伝えることができた。
- 相手の学校の情報を整理していたので、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 自分の学校の情報を整理していたので、事実と感想を区別して伝えることができた。
- 自分の学校の情報を整理していたので、複数の情報をまとめて伝えることができた。

【誤答例】

- ・ 1 と解答しているもの (県 5.7%、全国 5.1%)
- ・ 2 と解答しているもの (県 14.7%、全国 13.3%)
- ・ 3 と解答しているもの (県 17.7%、全国 16.6%)
- ・ 無解答 (県 0.5%、全国 0.9%)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

- 児童が複数のテーマから伝えたいことを選択し、その目的や意図に応じて、伝える内容を検討する(情報を整理する)場面を設定しましょう。
- 学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することや資料を提示することのよさについて、自分や級友の実際の活動を基に話し合う場を設けましょう。

【情報を整理する際の視点(例)】

- ・ 自分が伝えたい内容と相手が知りたい内容に分ける。
- ・ 目的に応じて、伝える内容に優先順位を付ける。
- ・ 分かりやすく伝えるために提示する資料を検討する。

例えばこのような授業の場面を通して(スピーチの授業例)

- ①目的や意図に応じて様々なアイデアを出しながら情報を整理し、伝え合う内容を検討するとともに、再構成した内容に適切な価値付けをする。
- ②学習を振り返り、情報を整理することや資料を提示することのよさについて確認し、学級全体の学びとして理解を深める。

①

自分が伝えたいことをたくさん集めたけど、どうしたら相手に伝わるスピーチになるのかな。

集めた情報を相手に伝えるためにはどうしたらよいかという悩みに、班のみんなでよいアドバイスを考えよう。

まずは、自分が必ず伝えたいことを赤ペンで囲んで、他と区別したらどうかな。

言葉で聞いただけでは分かりにくいものは、写真やグラフを見せると分かりやすいよ。

自分が伝えたいこと

- 食品ロスで捨てられる量
- 食品ロスが発生する場所
- 食品ロスで捨てられる食べ物の種類
- テレビで見たレストラン

食べ物を大切に感じた体験

アンケート結果

アンケート結果はグラフで示そう。食べ物を大切に感じた経験ともつなげよう。

この2つは伝えたいから赤で囲もう。

この情報は質問されたら答えよう。

班のみんなで出し合ったアドバイスを基に、みなさんも情報を整理しながら自分のスピーチを伝える内容や構成を検討してみましょう。

②

スピーチの学習を通して、集めた情報を分かりやすく伝えるために工夫したことについて振り返りましょう。

調べたことを全部伝えるのではなく、自分の伝えたいことを整理してスピーチすることが大切だと気付いたよ。

数字を伝える場面で、グラフを見せたら、「分かりやすかった」と言ってくれたよ。

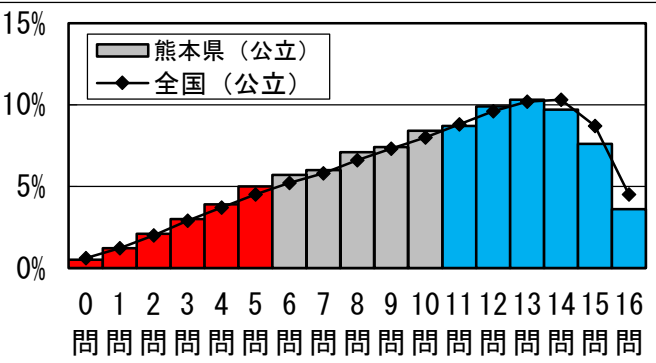
いいところに気付きましたね。あらかじめ情報を整理しておくことで、他にどんなよさがありましたか。

調べたことだけを言うのではなく、そこに自分の体験を交えたから分かりやすかったという感想をもらったよ。

調べたことを最初から全部伝えるのではなく、質問がきたら答えるものと分けたからよかったよ。

自分の体験を交えて話すと相手に共感してもらえますね。また、自分が伝えたいことを整理することで、伝えたいことがはっきりとしたスピーチになりましたね。みなさんも、活動を通して学んだことを振り返りましょう。

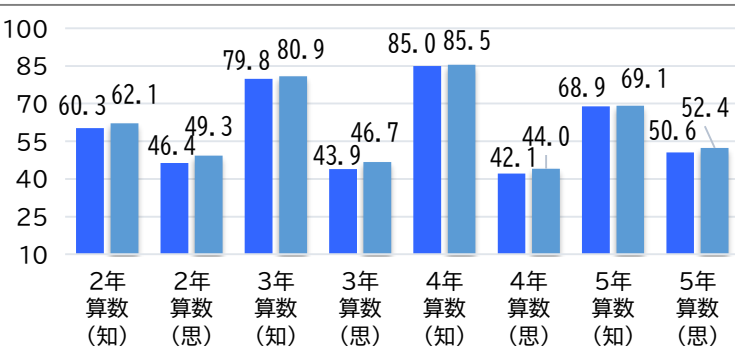
【正答数度数分布】



3割以下 (5問以下) 県: 15.7 (+0.8)
7割以上 (11問以上) 県: 49.8 (-2.3)

【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



本県 全国
※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は類似した出題趣旨で、過去継続して全国を下回っている問題

問題番号	出題の趣旨	学年	単元名等 (領域)	観点	正答率(%)		差
					県	全国	
1	(1) 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2年	たし算とひき算 (数と計算)	知識	60.3	62.1	-1.8
	(2) 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3年	□を使った式 (数と計算)	知識	87.2	88.5	-1.3
2	(1) 計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3年	かけ算の筆算 (数と計算)	思考	53.4	56.9	-3.5★
	(2) 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5年	小数のわり算 (数と計算)	知識	68.2	69.1	-0.9
3	(1) 直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4年	直方体と立方体 (図形)	知識	85.0	85.5	-0.5
	(2) 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5年	角柱と円柱 (図形)	知識	70.6	71.3	-0.7
	(3) 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3年 5年	円と球 (図形) 体積 (図形)	思考	33.6	36.5	-2.9
	(4) 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5年	角柱と円柱 (図形)	思考	71.5	72.0	-0.5
4	(1) 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5年	小数のわり算 (数と計算)	知識	71.5	70.1	1.4
	(2) 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	思考	66.5	70.0	-3.5★
	(3) 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	思考	30.9	31.0	-0.1
	(4) 速さの意味について理解しているかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	知識	53.5	54.1	-0.6
5	(1) 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	5年	帯グラフと円グラフ (データの活用)	知識	80.5	80.8	-0.3
	(2) 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	3年	表とグラフ (データの活用)	知識	72.4	73.3	-0.9
	(3) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	3年 4年	表とグラフ、折れ線グラフ (データの活用)	思考	42.1	44.0	-1.9
	(4) 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2年 3年	100をこえる数 (数と計算) 表とグラフ (データの活用)	思考	46.4	49.3	-2.9

改善が見られるもの ①図形領域における正答率の全国平均との差が昨年度より改善している。(R5: -2.6 → R6: -1.1)
②除数が小数である場合の除法の計算をすることができる児童の割合が多い。

課題が見られるもの ①計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。⇒ **次ページの内容へ**
②全国に比べ、正答率3割以下の児童の割合が多く、7割以上の割合が少ない。

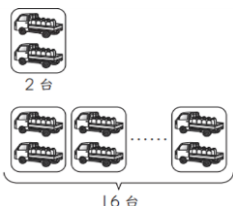
課題: 計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。

○大問2の正答率(小問別)

	2(1)	2(2)
問題概要	計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について検討する
県正答率	53.4%	68.2%
全国比	-3.5	-0.9

課題改善に向けて: 図や式を用いて、計算の性質を問題場面と関連付け、表現する場面を設定する。

令和6年度の問題 2(1)



$$350 \times 2 = 700$$

$$\downarrow \times \text{ア}$$

$$350 \times 16 = \text{イ}$$

上のアに入る数に着目すると、 350×16 の積イは、どのように求めることができますか。アに入る数に着目したときのイの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、アに入る数をどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、イに入る数も書きましょう。

【正答】① 16が2の8倍であることを表している式や言葉
② 700の8倍になることを用いて、 350×16 の積イを求める式や言葉
(①、②の全てを書き、イを5600と書いている。)

【誤答例】・①のみを書いている (県10.3%、全国9.5%)
・②のみを書いている (県4.6%、全国4.6%)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする

①計算の性質を活用していることを、図や式を用いて、問題場面と関連付けましょう。

②図や式を用いた説明を促し、児童が筋道を立てて説明できるようにしましょう。



例えばこのような授業の場面を通して

①図や式を用いて、場面と関連付ける。②図や式を用いた説明を促す。

① 350×16 だから、筆算すれば答えが出せるね。

わざわざ筆算しなくても求められそうだよ。トラック2台分のときの米の重さが分かっているでしょ。

えっ！筆算しなくても求められるのですね！トラック2台分のときの重さをどのように使うのですか。

トラックの数が16台ということは、2台の8倍になります。米の重さも同じように8倍すればいいです。

そう言えば、かけ算では、かける数を○倍にすると、積も○倍になるんだっけ。

かけ算の決まりが使えるそうですね。それでは、今言ったことを、みんなで図や式で表してみましょう。

② 図や式を使いながら、トラック2台分のときの米の重さをもとにして、トラック16台のときの米の重さの求め方を説明しましょう。

トラック2台分の米の重さは 350×2 なので700kgです。

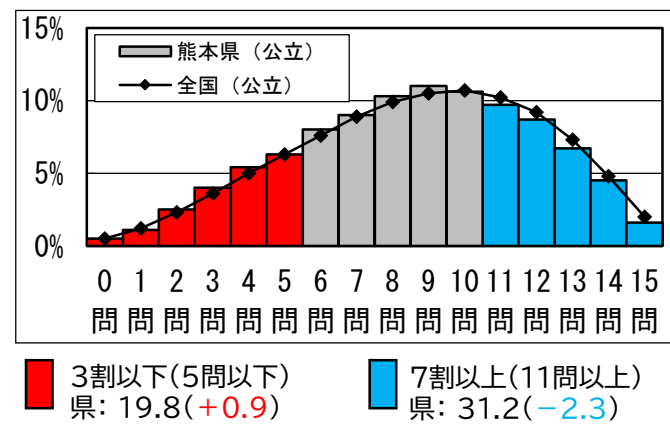
トラックが16台のときは、2台の8倍になるということだね。

トラックの数が8倍なので、米の重さも8倍になるね。 700×8 を計算すると、5600kgになります。

筆算をしなくても、倍に着目すると求められたよ。図や式を使うと、それぞれの関係が見えてきたね。友達の説明も分かりやすくなったよ。

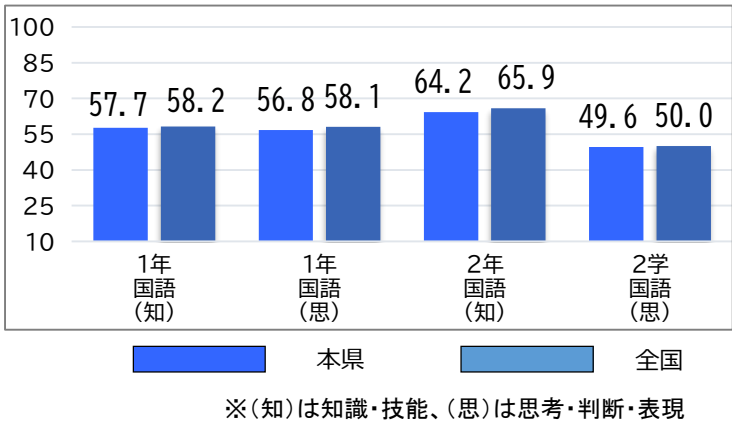
※状況に応じて、児童に問い返して説明を明確にさせたり、児童の言葉を板書して、図や式の意味を黒板上で明らかにする手立ても考えられます。

【正答度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続して全国を下回っている領域に関する問題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領の内容	評価の観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1一	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」エ	思考	61.3	63.2	-1.9
1二	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	2年	「話すこと・聞くこと」ウ	思考	65.4	68.5	-3.1
1三	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1年	「情報の扱い方に関する事項」ア	知識	42.8	44.0	-1.2
1四	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」オ	思考	45.6	44.7	0.9
2一	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	2年	「読むこと」ウ	思考	35.9	36.3	-0.4
2二	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2年	「情報の扱い方に関する事項」ア	知識	74.5	75.2	-0.7
2三	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	2年	「読むこと」ア	思考	62.2	64.5	-2.3
2四	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	1年	「読むこと」ウ	思考	39.6	42.6	-3.0★
3一	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	1年	「書くこと」ア	思考	80.8	81.4	-0.6
3二	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」オ	知識	52.0	53.8	-1.8
3三	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」ウ	知識	66.2	68.8	-2.6
3四	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	2年	「書くこと」ウ	思考	50.8	49.3	1.5
4一	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」オ	知識	53.5	54.9	-1.4
4二	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	1年	「読むこと」イ	思考	47.9	48.3	-0.4
4三	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	1年	「我が国の言語文化に関する事項」エ（イ）	知識	76.9	75.6	1.3

改善が見られるもの

- ①行書の特徴の理解は、令和4年度より改善している。※全国平均との差（R4：+0.4→R6：+1.3）
②「書くこと」ウの「自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」については、昨年度より改善し、全国平均を上回っている。
※全国平均との差（R5：-2.5→R6：+1.5）

課題が見られるもの

- ①「読むこと」の内容は、継続的な課題であり、「文章を要約すること」の定着が特に十分ではなかった。⇒次のページの内容へ
②知識及び技能の内容は、文の成分などの文法や漢字を正しく書くことなども継続的な課題である。
「文脈に即して漢字を正しく書くこと」※全国平均との差（R4：-1.9→R5：-2.9→R6：-2.6）

課題①: 目的や意図に応じて、必要な情報に着目して要約すること。「C 読むこと」

○大問2の正答率(小問別)

	一	三	四
問題概要	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える	目的に応じて必要な情報に着目して要約する
県正答率	35.9%	62.2%	39.6%
全国比	-0.4	-2.3	-3.0

課題改善に向けて: 伝える対象や目的を意識して、必要な情報に着目して要約する場面を設ける。

令和6年度の問題 2四

本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで要約しなさい。

ア 筆者が葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

問題について

(正答の条件) ①～③を満たしている。

- ①アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んでいる。
- ②選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げている。
- ③選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。

【誤答例】

- 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの(36.1%)



「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

- 目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える活動を設定しましょう。
- 単元の中で、要約のポイントを振り返る場面を設けましょう。

【「要約」の視点(例)】

- ・段落に分け、文章構成を捉える。
- ・キーワードや中心文を捉える。
(題名、繰り返し出てくる言葉、接続語、指示語を手掛かりにする。)
- ・文末、接続語、重複している内容、例など、不要な語句や内容を削る。

例えばこのような授業の場面を通して

※ 説明的な文章や実用的な文章を読んで、何を誰に伝えるか目的を決めて、要約する。

【生徒が作成した要約文】 ※参考:「第3次 熊本県動物愛護推進計画」

〈動物を飼おうと考えている皆さんへ〉

「命を大切に、やさしさあふれる人と動物が共生するくまもと」を実現するためには、飼い主の意識が大切です。飼い主は、動物の所有者を明示して、最後まで適正に飼うこと等が必要になります。飼い主になろうと考えている皆さんは、「犬猫の殺処分ゼロを目指す」ためにも、飼い主の意識の向上に御協力ください。

伝える対象と目的をそれぞれ決めてください。

目的に応じた要約にするには、どうすればいいのだろう？

私は動物を飼おうと考えている人の意識を高める要約文にします。

小学校の時に、中心となる語や文を見つけて要約したな。

目的に応じた要約になっているか検討する場を設ける

「目的」は、「動物を飼おうとしている人」の意識の向上だね。

目的から考えると、「最後まで適正に飼うこと」は、欠かせない情報だね。

「犬猫の引き取り数を減らすための対策」の部分は、「飼い主の意識の向上…」の前に必要な情報だと思うな。

目的を踏まえて、伝えたいことに関する中心語や中心文を探すといいね。

要約のポイントを振り返る場を設ける

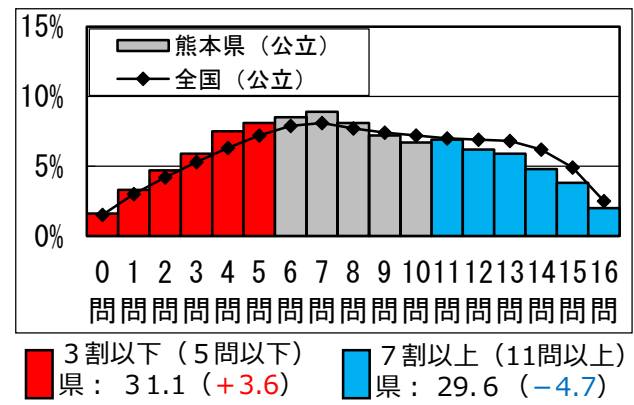
要約を通して、気付いたことや難しかったことを振り返りましょう。

文や語をつなぎ合わせる際は、別の言葉で言い換えたり、言葉を補ったりするのが難しかったな。

文末の表現や具体例などの不要な語句や内容を削っていくと文章が短くなっていくね。

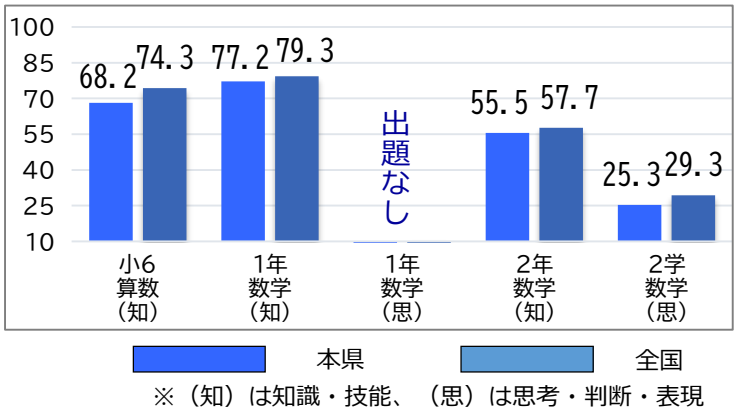
中心となる語や文を見付けるために、繰り返し出てくる言葉や指示語に着目するとまとめやすくなるね。

【正答度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は類似した出題趣旨で、過去継続して全国を下回っている問題

問題番号	出題の趣旨	学年	単元名等(領域)	評価の観点	正答率(%)		差
					県	全国	
1	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	知識	29.1	34.8	-5.7
2	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	知識	49.6	52.5	-2.9
3	回転移動について理解しているかどうかをみる	1年	平面図形(図形)	知識	65.2	68.3	-3.1
4	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	知識	66.4	65.3	1.1
5	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	2年	データの分布(データの活用)	知識	70.2	73.1	-2.9
6	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1年	正の数と負の数(数と式)	知識	89.2	90.2	-1.0
	(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	思考	28.4	35.9	-7.5★
	(3) 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	思考	39.8	41.8	-2.0
7	(1) 与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	小学6年	資料の整理(データの活用)	知識	68.2	74.3	-6.1
	(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年	データの分布(データの活用)	思考	23.1	25.9	-2.8
	(3) 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	2年	データの分布(データの活用)	知識	47.7	48.5	-0.8
8	(1) 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	知識	82.5	83.4	-0.9
	(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	思考	15.2	17.1	-1.9
	(3) グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	知識	75.9	76.9	-1.0
9	(1) 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2年	図形の合同(図形)	思考	20.1	25.8	-5.7★
	(2) 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	2年	図形の合同(図形)	知識	22.9	26.7	-3.8

改善が見られるもの ①正答率3割以下の割合が昨年度より改善している。(全国との差/R5: +4.2 → R6: +3.6)
②一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することができる生徒の割合が全国に比べ多い。

課題が見られるもの ①「数と式」領域において、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる。⇒ 次ページの内容へ
②全国に比べ、正答率3割以下の生徒の割合が多く、7割以上の割合が少ない。

課題①：「数と式」領域において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること。

○大問1の正答率の推移(R4～R6)

	R6	R5	R4
問題概要	連続する2つの偶数を n を用いて表す	自然数をすべて選ぶ	42を素因数分解する
県正答率	29.1%	37.9%	47.3%
全国比	-5.7	-8.2	-4.9

課題改善に向けて：問題解決の際に、既習事項の定着を確認する場面を設ける

令和6年度の問題

- 1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

問題について

【正答例】 $2n$ 、 $2n+2$ など、連続する2つの偶数を解答しているもの。
(解答の順番は不問。以下同様。)

【誤答例】・「 $2n$ 」や「 $2n+(\text{具体的な数})$ 」、「 n 」や「 $n+(\text{具体的な数})$ 」以外で n を用いて2つの整数を表しているもの(県11.1%、全国9.1%)

【無解答】(県16.2%、全国14.3%)

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文字を用いた式(1年知技A(2)ア、思考表A(2)イ)
- 文字を用いた式(2年思判表A(1)イ)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

既習事項を活用して問題解決する場面では、実態に応じて、問題解決に取り組む前に、活用する既習事項が定着しているか確認しましょう。



既習事項を繰り返し確認することは、生徒にとってこれまでの学習を振り返ったり、これまで分からなかったことを理解したりすることにつながります。



例えばこのような授業の場面を通して

※第2学年「2つの連続する偶数の和は必ず偶数になること」や第3学年「2つの連続する偶数の積に1を加えた数は、奇数の2乗になること」等、文字を用いた式を活用する学習活動で、まずは生徒が文字を用いた式で数量(偶数、奇数や○の倍数等)を表すことができるか、確認する場面を設ける。

n を自然数とすると、偶数は n を使ってどのように表していましたか？

どう表すのだろう。

$2n$ だったかな。

偶数は2の倍数だったな。

生徒の定着状況を把握する

青い吹き出しの生徒が多い場合

$2n$ の次の偶数は n を用いてどのように表せるか考えましょう。(思考する時間を確保する。)

$2n+2$ だと思います。

〇〇さんは、どうしてそう考えたと思いますか？

偶数は2ずつ増えるから $2n$ に2を加えたのだと思います。

理由を問い、考えを共有する場を設ける

赤い吹き出しの生徒が多い場合

偶数は2、4、6、8などの数ですね。

だから偶数は2の倍数なんだね。

つまり n を2倍するといいから $2n$ だね。

偶数はどのように増えていますか？

2ずつ増えます。

あ！ということは $2n$ の次の偶数は…

$2n$ と $2n+2$ の和を計算すると証明できそうだね。

2つの和が偶数ならば、2の倍数だから $2 \times \text{何か}$ で表すことができそうだな。

では実際に説明を考えてみましょう。

※本県では思考力・判断力・表現力等に関する問題についても、継続して課題が見られます。生徒の定着状況を把握した上で、既習事項を基に根拠を説明する活動等に取り組ましましょう。

令和 6 年度全国学力・学習状況調査

各学校での教科に関する調査及び質問調査の 分析について

熊本県教育委員会

目次

- 1 分析に向けて（p 2～4）
- 2 教科に関する調査の分析について（p 5～18）
 - （1）問題分析から授業改善へ（p 7～13）
 - （2）正答率等の結果から授業改善へ（p 14～17）
 - （3）国の授業アイディア例や、
県の教科に関する調査結果から授業改善へ（p 18）
- 3 質問調査の分析について（p 19～24）
 - （1）質問項目の絞り込み（p 21～22）
 - （2）結果の可視化（p 23）
 - （3）分析と取組（p 24）
- 参考資料 校内研修シート例（p 25～30）

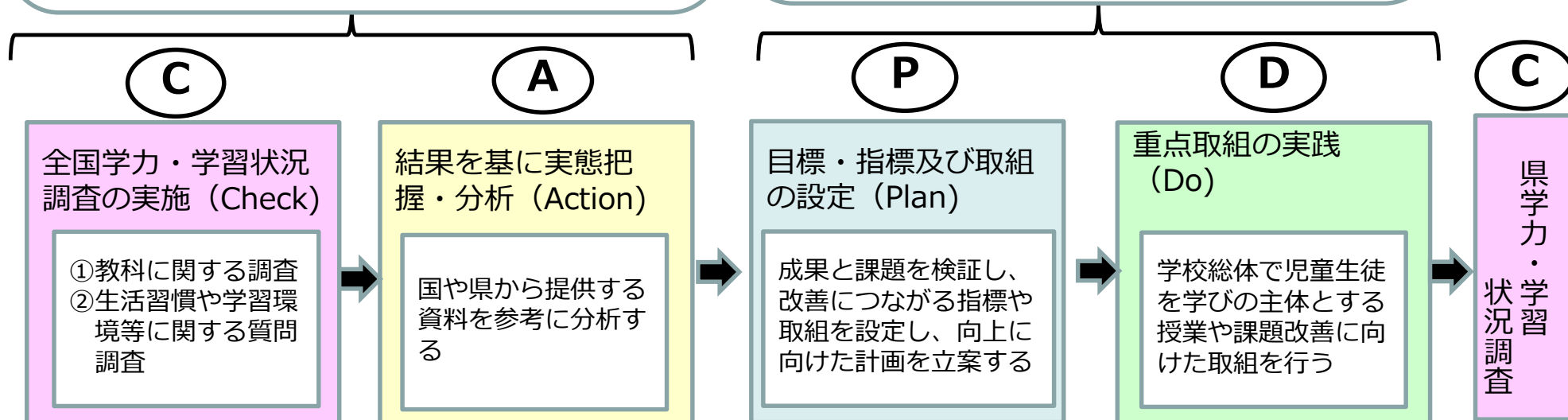
1 分析に向けて

1 分析に向けて

<分析について>

◇学力・学習状況調査の結果から、児童生徒の学力・学習状況や各学校の授業及び学びの保障の取組状況が把握できます

◇取組の成果と課題を検証し、改善に向けて、授業や学校総体で取り組みます



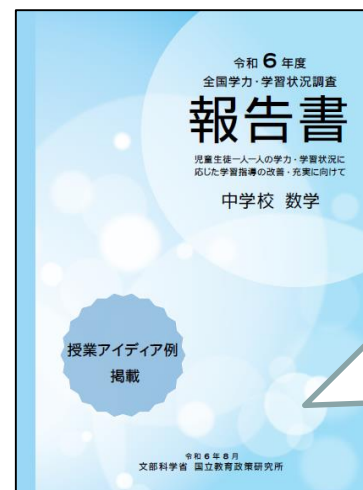
1 分析に向けて

<分析のポイント>

全国学力・学習状況調査の**解説資料**や**報告書**、本県作成「教科の結果分析と課題の改善に向けて」及び本資料は、各学校における結果分析と改善に向けた取組を考える際の参考となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

※ 質問調査においては、経年変化や学力とのクロス分析を掲載

※ 「解説資料」及び「報告書」は下記のURLよりダウンロードできます（R5よりデータにて提供）

「解説資料」： <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

「報告書」： <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku>

2 教科に関する調査の分析について

2 教科に関する調査の分析について

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

方法①:問題分析から授業改善へ

方法②:正答率等の結果から授業改善へ

方法③:国の授業アイデア例や、県の教科に関する調査結果から授業改善へ

※ 本校の重点取組(活用)シートと併せて活用する。

※P7参照

まずは、「課題改善に向けた重点指標及び取組」と「本校の重点取組（活用）シート」を確認しましょう！



【問題分析の視点】 ◇問題の分析は、授業改善につながります。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

次ページから、今年度及び昨年度までの全国学力・学習状況調査問題の問題等を例に、①～⑤の視点から分析し、授業改善に生かすポイントを示します。

2－（１）「問題分析から授業改善へ」

①「題材」に着目する

- ・ 日常生活と関連するものを扱っている
- ・ 一人一台端末を活用している場面を扱っている



授業改善に生かすポイント

○本問題のように、日常生活と関連した学習活動を位置付けることで、児童生徒が、学んだことの広がりや深まりを実感することにつながります。

全国学力・学習状況調査の問題には、授業改善につながるたくさんのヒントがあります。

R6年度小学校6年生国語より

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございました。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出席されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【オンライン交流の様子の一部】

オンラインで学校間交流をする場面設定

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

②「構成」や「配列」に着目する

- 思考の流れに沿った配列

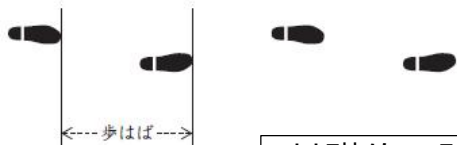
基礎的な1問目から、少しずつ難易度を高くしたり、前の小問の解答を活用して次の問題に取り組んだりといった構成となっている。

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



基礎的な計算

家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

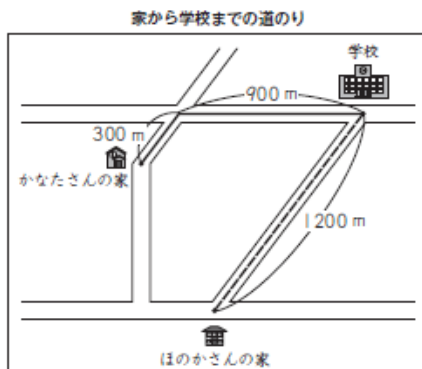
(2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

知識を活用して、思考を伴う計算

授業改善に生かすポイント

- 目的に応じて、問題場面を設定しましょう。
- 思考や課題解決の流れに沿った問題の配列にしましょう。
- 解答したことを、活用して考えるような構成にしましょう。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

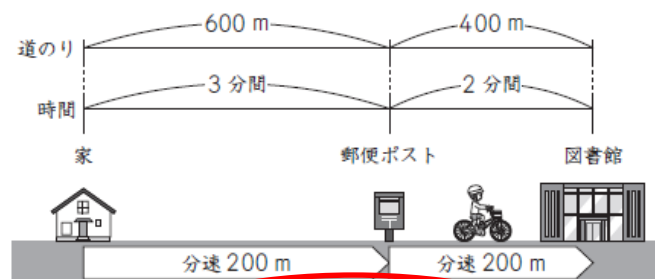
それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
2 ほのかさん

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 mで、3分間かかり、速さは分速200 mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 mで、2分間かかり、速さは分速200 mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

場面に応じた考察

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

③「問い方」に着目する

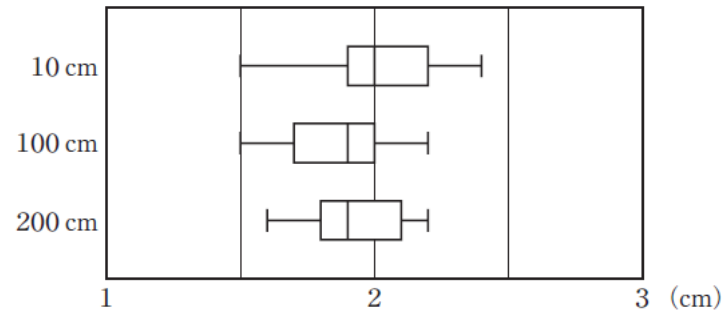
- ・ 簡潔で具体的な問い方
- ・ 1文に1つの指示や発問



授業改善に生かすポイント

- あいまいな発問にせず、教科等の見方・考え方を働かせるような具体的な発問にしましょう。
- 学習のねらいに応じて、何に着目するのか(何から読み取るのか)を示しましょう。

設定した位置から進んだ距離の分布



	設定した位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10 cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100 cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200 cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

「四分位範囲はどうなりますか」だけでなく、何から読み取るのかを具体的に示してあります。

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

④「解答類型」に着目する

- ・ 誤答を予想



授業改善に生かすポイント

○子供たちのつまずきから、指導の改善を図りましょう。

○一時間のゴールや単元のゴールを明確に把握しましょう。

報告書では、設問毎に「解答類型と反応率」「分析結果と課題」等が記載されており、子供たちの解答状況やつまずきの理由等が分析されています。



1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反応率 (%)	正答
④	(2) 1 30 と解答しているもの	70.2	◎
	2 300 と解答しているもの	0.4	
	3 10 と解答しているもの	10.0	
	4 60 と解答しているもの	5.2	
	5 600 と解答しているもの	2.3	
	6 540 と解答しているもの	0.6	
	5400 と解答しているもの		
	7 108000 と解答しているもの	0.1	
	99 上記以外の解答	7.9	
	0 無解答	3.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、このように解答した児童は、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。
- 解答類型4について、このように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を解答していると考えられる。
- 解答類型99の中には、「6」という解答がある。このように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を10で割って解答していると考えられる。

3. 学習指導に当たって

二つの数量の関係に着目し、その関係を用いることができるようにする

- 速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、3分間で180m歩くのと同じ速さで歩き続けると1800m歩くのに何分間かかるかを考え、説明する活動が考えられる。その際、1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係をを用いたりすることができるようになることが大切である。また、360m、540m、720m、…などの道のりについて歩くのにかかる時間を考えることを通して、道のりが2倍、3倍、4倍、…になれば、それに伴って歩くのにかかる時間も2倍、3倍、4倍、…となり、道のりと時間が比例の関係にあることに気付くことができるようになることも大切である。

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

⑤過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する



授業改善に生かすポイント

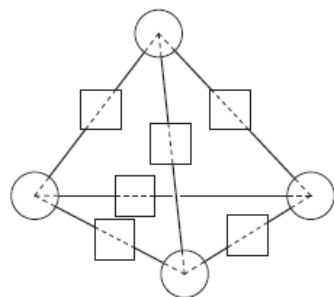
○題材や問い方を授業づくりやテストづくりの参考にしてみましょう。

○問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認しましょう。

R6年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生数学)より

(3) 優真さんは、正三角形を正四面体に変えても、各頂点の○に入れた整数の和と各辺の□に入る整数の和の間には何か関係があるのではないかと思います。正四面体の図をかいて考えてみることにしました。次の図5は、正四面体の図の各頂点に○を、各辺に□をかいたものです。

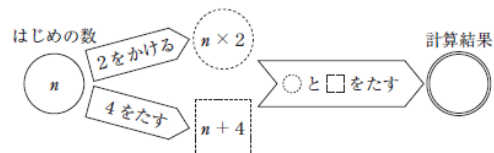
図5



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。前ページの予想のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

R5年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生数学)より

図3



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。計算結果は、

$$\begin{aligned} & n \times 2 + (n + 4) \\ &= 2n + n + 4 \\ &= 3n + 4 \end{aligned}$$

計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

2－（１）「問題分析から授業改善へ」

◇「問題分析の視点」は、定着問題や定期考査の作成にも役立ちます。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

定着問題や定期考査などの作成の際には、「題材」「構成」「配列」「問い方」を参考にすることができます。

また、調査問題を、該当学年での定着確認やレディネステストに活用することも考えられます。

定着が十分でない場合は、分かる喜びが実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導していきましょう。

2－（２） 「正答率等の結果から授業改善へ」

◇正答率等の分析は、授業改善につながります。

【分析の流れ】

- ① 成果と課題を洗い出す
- ② 学校全体で課題となるような「問題」を抽出する
- ③ ②の問題について、課題改善のための取組を考える

次ページから、主に小学校算数を例に、①～③の分析の流れを示しています。

2－（２）「正答率等の結果から授業改善へ」

①成果と課題を洗い出す視点

- ・ **正答率**に着目する

自校の正答率を県や全国と比較する。これまでの調査で見られた課題について、改善が見られるか確認する。定着に課題がある指導事項を確認する。

- ・ 「**内容や領域**」、「**評価の観点**」、「**問題形式**」に着目する

成果や課題が「内容や領域」、「評価の観点」、「問題形式」に着目し、これまでの取組を検証する。

- ・ **無解答率**に着目する

問題や、国の解説資料等を参考にして、解答を書いていない原因やつまずきを考える。

- ・ **反応率**に着目する

解答類型から「反応率」を見てみると、子供たちの誤答の状況やつまずきが見える。誤答から、個別最適な指導への気付きがある。



今年の３年生数学は、「図形」の領域の問題がよく解けていた。数学担当の〇〇先生の「図形」の授業に、授業改善のヒントがあるな。



小学校国語の「４二」の問題は正答率が高いけど、間違っ「３」と解答している子供も多いな。指導の方法を見直す必要があるな。

2 - (2) 「正答率等の結果から授業改善へ」

②課題となる問題の抽出

・ **正答率**に着目する

正答率が3割未満で、全国平均を下回っている。

・ **反応率**に着目する

解答類型から、「60」と解答する誤答の割合が33.2%であり、正答率よりも高い。また「40」という誤答が13.5%であり、無答は3.7%である。

授業改善に生かすポイント

○問題を実際に解いてみましょう。

○提供されたデータの問題別(解答類型)調査結果と「報告書」の解答類型を参考に、子供のつまづきがどこにあるか確認しましょう。

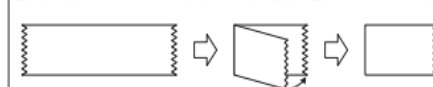
R5年度 小学校6年生算数より

●小学校算数2(3)(本県21.4%、全国24.9%、-3.5) 問題の一部

(3) えいたさんは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



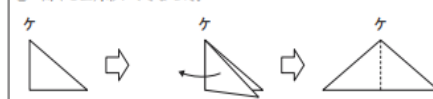
② 右の図のように、折り目のしを点ケとします。



③ 折って重ねたまま、点ケを通るなめの直線で切ります。



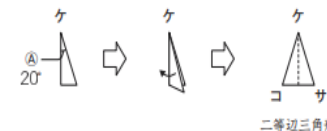
④ 開くと三角形ができました。



ゆいさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれがうごきさにしました。



私は、④の角の大きさを20°にしました。切った開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切った開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいさんとちがう大きさにして切りました。

切った開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするればよいですか。

答えを書きましょう。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② (3)	1 30 と解答しているもの	25.3	◎
	2 60 と解答しているもの	33.2	
	3 15 と解答しているもの	0.2	
	4 120 と解答しているもの	0.9	
	5 45 と解答しているもの	7.7	
	6 90 と解答しているもの	4.8	
	7 20 と解答しているもの	3.1	
	8 40 と解答しているもの	13.5	
	99 上記以外の解答	7.7	
	0 無解答	3.7	

③抽出した問題の課題改善への取組

- ・ 報告書の出題の趣旨や該当学年を確認し、学習指導要領解説から身に付けさせる力を確認する。

- ・調査対象学年や、抽出した問題の該当学年でも設定した取組を行う。

(例) 課題が見られた内容と関連する領域や指導事項等を扱う際に、既習事項を振り返ったり、活用したりする場面を設定する。

(例) 全学調の問題を、該当学年の定着問題や定期考査の問題作成の参考とする。

※問題別調査結果を見ると、出題の趣旨や該当学年が分かります。

[illegible]

調査実施年度		調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度の調査				調査実施年度の調査				調査実施年度の調査				調査実施年度の調査																																																																																			
調査実施年度	調査実施年度			調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度	調査実施年度																																																																																	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79																					

出題の趣旨が分かります

該当学年が
分かります

2-(3) 「国の授業アイデア例や、県の教科に関する調査結果から授業改善へ」

○国の授業アイデア例や県の教科に関する調査結果を参考にする。

- ・課題に関連する問題に着目する
- ・具体的な授業場面における改善の手立てを考える

授業改善に生かすポイント

- 課題のある問題の解答状況を把握しましょう。
- 国や県の資料を参考に、具体的な授業場面における課題改善に向けた手立てを考え、確実に実践しましょう。

C: 読書活動を振り返る場面 これまでの読書活動を振り返り、読書の意味を考える

◇ 一年間取り組んできた読書活動を振り返り、読書の意味を考えます。

教師
みなさんは一年間、さまざまな種類の本を読んで、日常的に読書に親しみましたね。読書にどんなよいところがあったか、振り返ってみましょう。

【Aグループでの振り返り】

私は、日本の歴史に興味があったから、いろいろな時代の本を図書館から借りたよ。

私は、星について疑問があったんだけど、本を読んだら疑問だったことが解決したよ。困ったときには、読書をするとう解決できるね。

ぼくも好きなシリーズの本を図書館から借りたけれど、図書館には自分の読みたい本があるね。

【Bグループでの振り返り】

私は、伝記を読んで、今までの自分になかった考えを発見することができたよ。

ぼくは、意見文を読んだら、自分の考えも広がったし、自分の心に響く言葉も見付かったよ。

ぼくは、物語の登場人物の生き方にふれて、自分の生き方についても考えるようになったんだ。

【Cグループでの振り返り】

いろいろなジャンルの本を読んで、自分の本の読み方が変わってきた気がするよ。

私が読んだ説明文は、結論が一番最初に書かれていて、分かりやすかったし、説得力もあったよ。文章の書き方も大事なんだね。

ぼくは、自分が文章を書くときに役立つ書き方を学ぶことができたよ。今後、この書き方で書いてみようと思ったよ。

ポイント

○ 児童自身が読書の価値に気付くことができるようにすることが大切です。年間の「読書の記録」を生かして、どのような本や文章を読んできたのか、読書がどのように自分の考えを広げるのに役立ったのかなど、交流する場を工夫し、児童同士で気付きを引き出せるようにすると効果的です。

令和6年度全国学力・学習状況調査報告書「小学校国語」より

3 質問調査の分析について

◇質問調査の結果分析から、課題改善の取組へ

【分析の流れ】

- ① グランドデザイン等と関連のある質問項目を絞り込む
- ② ①について、表やグラフで可視化する
- ③ 結果を分析し、課題改善の取組を考える

※ 「本校の重点取組(活用)シート」と併せて活用する

※P7参照

まずは、「課題改善に向けた重点指標及び取組」と「本校の重点取組（活用）シート」を確認しましょう！

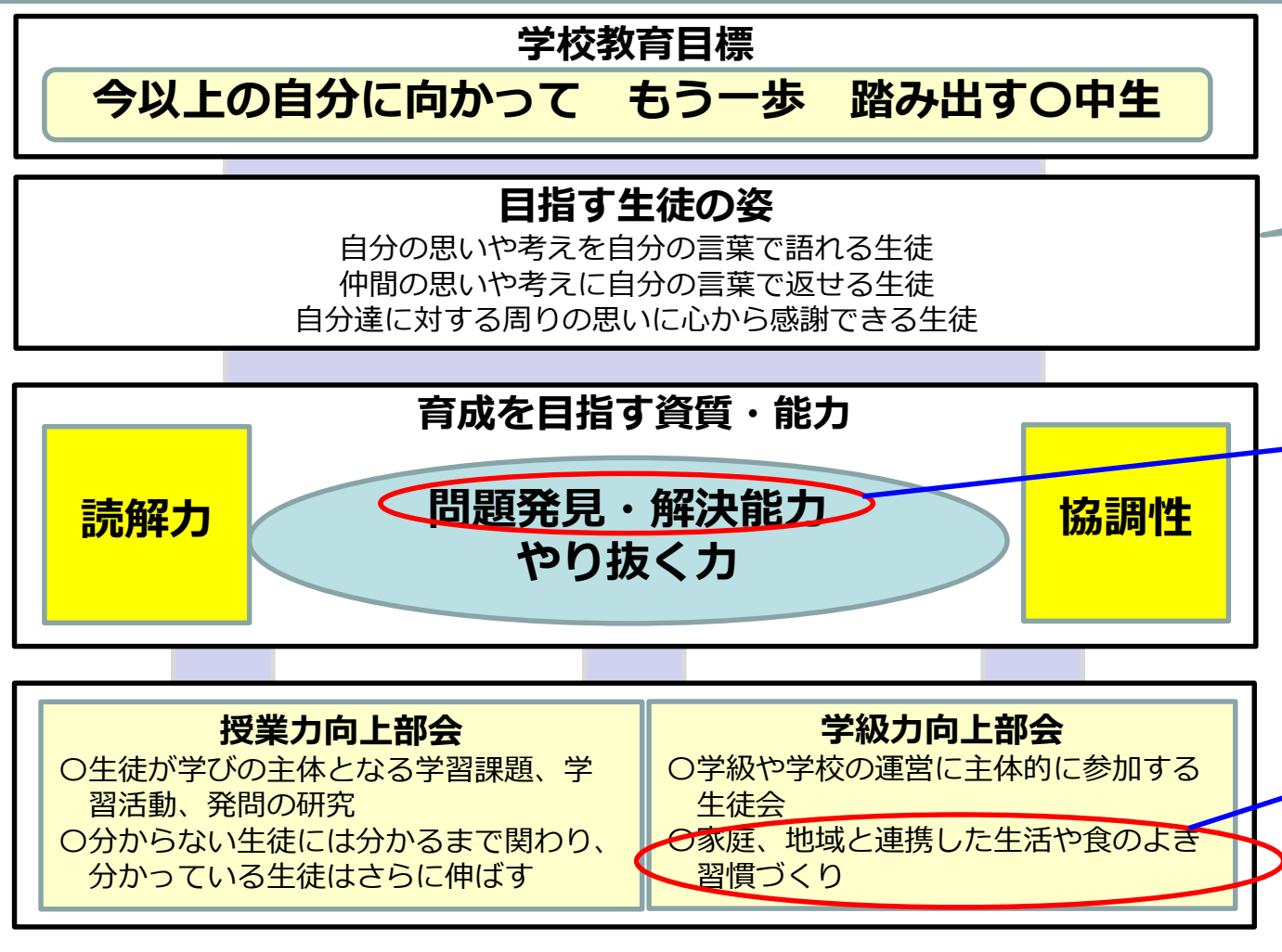


3－（１）「質問項目の絞り込み」

- ① 学校教育目標、育成を目指す資質・能力の達成につながる質問項目を選び、その中から絞り込む。

※学級経営、校内研修等でも考えられます。

グランドデザインの一例（一部分を抽出）



グランドデザインや研究計画等を基に各学校が、質問項目を選ぶ。

（例）児童生徒質問の問20
「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」について、回答割合や経年変化を見ていく。

（例）学校質問の問14の回答割合から、地域等の外部の資源を含めた、教育活動に必要な人的・物的資源等の活用状況を分析していく。

3－（１）「質問項目の絞り込み」

【児童生徒質問及び学校質問の主な項目】

児童生徒質問対応表

		質問番号	学年 ページ	クロス ページ
1 基本的な生活習慣等	小学校調査	1～8	13～18	90
	中学校調査	1～8		
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	小学校調査	9～19	17～21	
	中学校調査	9～19		
3 学習習慣、学習環境等	小学校調査	20～24	22～24	91～93
	中学校調査	20～24		
4 地域や社会に関わる活動の状況等	小学校調査	25～26	25～27	
	中学校調査	25～26		
5 ICTを活用した学習状況	小学校調査	27～28	28～30	
	中学校調査	27～28		
6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小学校調査	29～37	31～34	94～95
	中学校調査	29～37		
7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小学校調査	38～41	35～36	
	中学校調査	38～41		
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小学校調査	42～49	37～40	96～99
	中学校調査	42～49		
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小学校調査	50～57	41～44	100～103
	中学校調査	50～57		
10 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）	小学校調査	58～60	45	
	中学校調査	58～60		
11 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	小学校調査	61～63	46～48	
	中学校調査	61～65		
12 各教科に関する調査の解答状況	小学校調査	国1、国2、算1、算2	49～50	104
	中学校調査	国1、国2、算1、算2		

報告書には、質問対応表があり、それぞれの質問がどういった項目に関する調査であるか、掲載ページとともに記載してあります。

R6年度児童生徒質問の主な項目

- 1 基本的な生活習慣等
- 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- 3 学習習慣、学習環境等
- 4 地域や社会に関わる活動の状況等
- 5 ICTを活用した学習状況
- 6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
- 8 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（国語）
- 9 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）
- 10 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（理科）
- 11 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（英語）
- 12 各教科に関する調査の解答状況

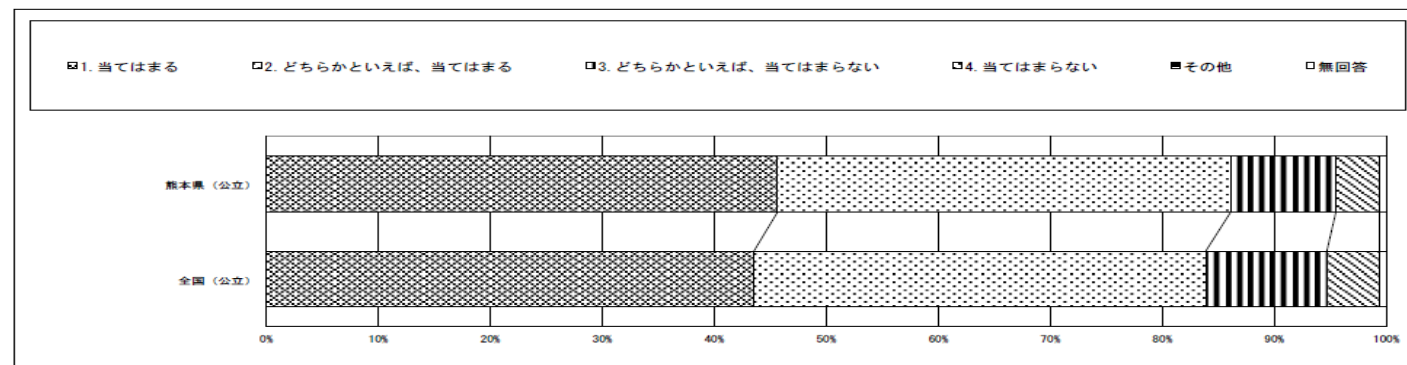
R6年度学校質問の主な項目

- 1 生徒指導等
- 2 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- 3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 4 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法
- 5 学習評価
- 6 国語科の指導方法
- 7 算数・数学科の指導方法
- 8 理科の指導方法
- 9 英語科の指導方法
- 10 ICTを活用した学習状況
- 11 特別支援教育
- 12 小学校教育と中学校教育の連携
- 13 家庭や地域との連携等
- 13 家庭学習
- 15 全国学力・学習状況調査の結果の活用

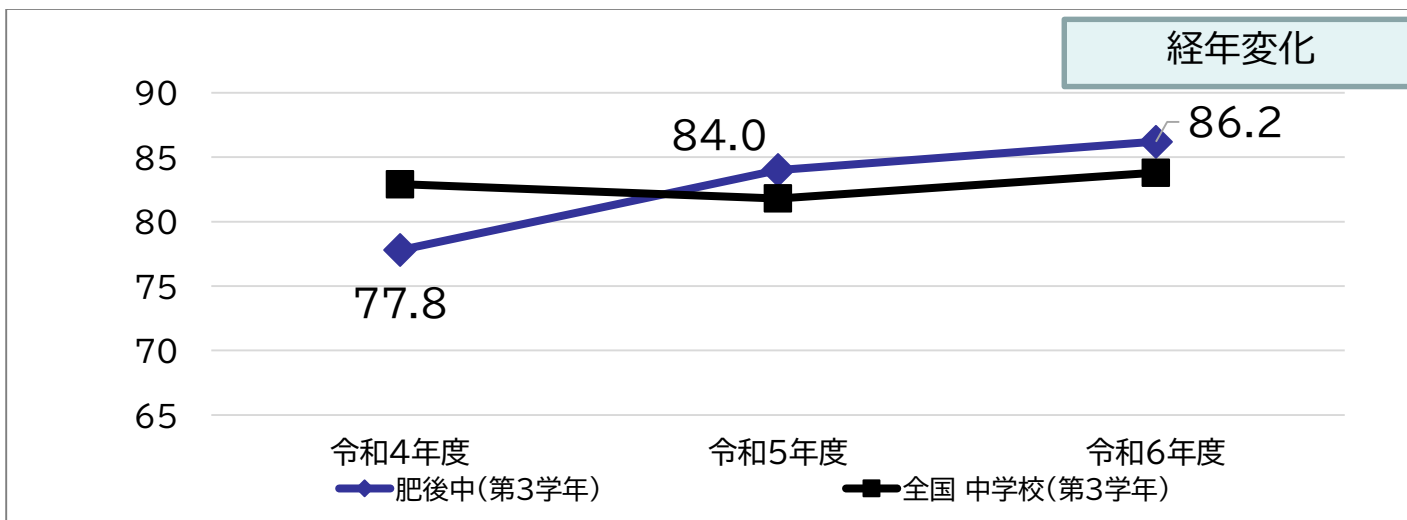
3－（２）「結果の可視化」

② ①の質問項目を、表やグラフにする。

質問番号	質問事項											回答結果集計	
（１６）	学校に行くのは楽しいと思いますか												
選択肢	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０	その他	無回答	
熊本県（公立）	45.7	40.5	9.4	3.9							0.0	0.6	
全国（公立）	43.5	40.3	10.8	4.7							0.0	0.6	



- ・各学校に提供されている、「回答結果集計」を活用する。
- ・学力調査とのクロス集計も可能。

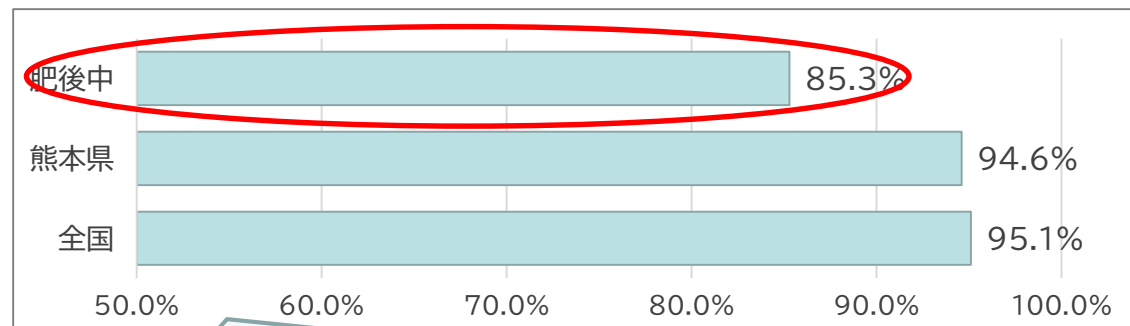


- ・経年変化は折れ線グラフにし、全国や県の平均と比較してみる。

3－（3）「分析と取組」

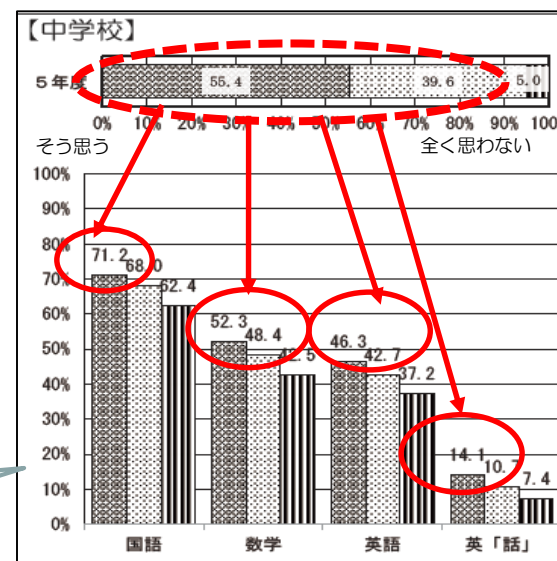
③ 結果を分析し、課題改善の取組を考えましょう。

(例)「学校質問9 調査対象年学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。」の結果



分析1: 肯定した生徒の割合を全国値、県平均と比べると、肥後中は低い傾向にある。

分析2: 国のクロス分析では、肯定率が高い学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあることを確認する。



取組を考えるためのポイント

- これまでの取組を振り返り、成果と課題を整理する。
- 授業、行事、児童会・生徒会等での児童生徒の様子を共有する。
- 児童生徒はどう考えているかアンケートで聞き取りを行う。(児童会、生徒会との連携)
- 学校教育目標の実現や育成を目指す資質・能力に向け五者連携で取り組むことを考える。
- 「熊本の学び」プロジェクト校の取組や、「熊本の学び推進プラン」、取組事例集等を参考にする。

校内研修シート例

校内研修シート① 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を
分析してみましょう。

取り出した問題：教科() 大問()の()
※平均正答率 ：自校()%、県()%

①「題材」や「配列」、「問い方」の工夫について、話し合みましょう。

②「解答類型」から、自校の子供たちのつまずきを確認しましょう。

③ 過去の調査問題の類似問題を探してみましょう。

・ () 年度の () 年生

(教科) 大問 () の ()

○学校総体で取り組む内容
をまとめましょう。

成果が見られた内容

○ 出題の趣旨や【問題番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

課題が見られた内容

○ 出題の趣旨や【関連番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

◇課題となった問題の誤答例から学ばせる必要がある知識・技能を考えたり、定着につながる言語活動や学習活動など具体的な授業の場面を考えましょう。

課題が見られた問題

●問題番号(大問 の)
(自校 %、本県 %、全国 %)

・誤答の状況

・誤答しないために必要な力

・そのための手立て

「児童生徒を学びの主体」とする授業改善の視点

※参照：県教委HP「教科の結果分析と課題の改善に向けて」

目指す具体的な授業場面

○
※学習指導要領解説を読んで考える。

校内研修シート④ 「質問項目の絞り込み」

○各学校の教育目標、育成を目指す資質・能力、重点取組

- 
- ・「児童生徒質問」から、上記の実現に向けて特に関連のある質問項目を選ぶ。
 - ・肯定率を全国平均や県平均と比較し、肯定率の経年変化を確認する。

- 
- ・「児童生徒質問」と関連のある学校質問を選ぶ。
 - ・全職員に調査し、児童生徒の意識と比較してみる。

校内研修シート⑤ 結果の可視化、分析と取組

①質問項目
【問 】

②結果（表やグラフでの可視化）

③分析結果及び今後の取組